

見ざる言わざる聞かざるじゃあもったいないねえ!

こでらんねえ 栃木県

報告書

栃木県

開催日程

令和7年

11/7 金

分科会(県内13会場)

11/8 土

[午前]分科会(県内13会場)

18:00 全体交流会

(ライトキューブ 宇都宮)

11/9 日

[午前]全体会

(栃木県総合文化センター)



第41回地域づくり団体全国研修交流会
栃木大会

INDEX

見ざる 言わざる 聞かざるじゃあもったいねえ! ~こでらんねえ 栃木県~



■ 開催概要	3~4
■ 分科会一覧	5
■ 全体交流会あいさつ	6~9
地域づくり団体全国協議会 会長 西村 幸夫	
栃木県知事 福田 富一	
一般財団法人 地域活性化センター理事長 林崎 理 様	
宇都宮市長 佐藤 栄一 様	
■ 分科会開催内容	10~61
◆ 第1分科会 宇都宮市	10
◆ 第2分科会 足利市	14
◆ 第3分科会 栃木市	18
◆ 第4分科会 佐野市	22
◆ 第5分科会 鹿沼市	26
◆ 第6分科会 日光市	30
◆ 第7分科会 小山市・下野市	34
◆ 第8分科会 真岡市	38
◆ 第9分科会 大田原市	42
◆ 第10分科会 矢板市	46
◆ 第11分科会 那須塩原市	50
◆ 第12分科会 茂木町	54
◆ 第13分科会 那珂川町	58
■ 全体交流会フォトギャラリー	62~63
■ 全体交流会閉会あいさつ	64
栃木大会実行委員会 副委員長 林 大輔	
■ 全体会あいさつ	65~67
栃木大会実行委員会 委員長 手塚 将之	
栃木県副知事 赤岩 弘智	
総務省地域力創造審議官 恩田 馨 様	
■ 全体会 各分科会発表	68~80
■ 全体会フォトギャラリー	81
■ 参加者アンケート	82
■ 魅力発信サポーター活動報告会	83
■ 次回開催県 長野県PR	84
■ 参加者一覧	85~86
■ 栃木大会実行委員一覧	87

開催概要

見ざる 言わざる 聞かざるじゃあもったいねえ! ~こでらんねえ 栃木県~



第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会

開催趣旨

全国の地域づくり団体や行政関係者が一堂に会し、自主的・主体的な地域づくりに資する全国レベルの研修や情報交換を行うとともに、栃木県の多彩な地域づくりを全国に発信することを通して、県内外の地域づくりネットワークの強化・活性化を図ることを目的に開催。

大会テーマ

見ざる 言わざる 聞かざるじゃあもったいねえ!
~こでらんねえ 栃木県~

主催

地域づくり団体全国協議会
第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会実行委員会

後援

総務省
一般財団法人 地域活性化センター
公益財団法人 栃木県市町村振興協会

開催日時

令和7(2025)年11月7日(金)~11月9日(日)

- 分科会：11月7日(金)~11月8日(土)16:00頃まで
- 全体交流会：11月8日(土)18:00~20:00
- 全体会：11月9日(日)10:00~12:00

開催場所

- 分科会：栃木県内13会場
- 全体交流会：ライトキューブ宇都宮中ホール(宇都宮市宮みらい1-20)
- 全体会：栃木県総合文化センター特別会議室(宇都宮市本町1-8)



開催概要

見ざる 言わざる 聞かざるじゃあもったいねえ! ～こでらんねえ 栃木県～



全体交流会・全体会プログラム

全体交流会

- ◆歓迎セレモニー ジャズ生演奏(宇都宮ジャズ協会)
- ◆主催者開会あいさつ 西村 幸夫(地域づくり団体全国協議会 会長)
- ◆歓迎あいさつ 福田 富一(栃木県知事)
- ◆来賓あいさつ 林崎 理 様(一般財団法人地域活性化センター 理事長)
- ◆来賓紹介
- ◆乾杯発声 佐藤 栄一 様(宇都宮市 市長)
- ◆アトラクション ジャズ生演奏
カクテルフレアショー
八木節
- ◆大学生紹介 サポーター事業参加大学生
- ◆閉会あいさつ 林 大輔(第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会
実行委員会 副委員長)
- ◆記念撮影
- ◆閉会

全体会

- ◆主催者開会あいさつ 手塚 将之(第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会
実行委員会 委員長)
- ◆歓迎あいさつ 赤岩 弘智(栃木県副知事)
- ◆来賓あいさつ 恩田 馨 様(総務省地域力創造審議官)
- ◆分科会報告 第1分科会～第13分科会
- ◆次回開催県PR 長野県
- ◆閉会あいさつ 手塚 将之(第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会
実行委員会 委員長)
- ◆閉会

分科会一覧

見ざる 言わざる 聞かざるじゃあもったいねえ! ~こでらんねえ 栃木県~



那須塩原市分科会

扇状地に広がる自然とコミュニティで沸き起こるアートなまち

日光市分科会

繁栄の「光と影」から掘り起こす、地域資源の活かし方

鹿沼市分科会

『シニアサポートモビリティ』と『耕作放棄地で生まれる至極の慈しみそば』

佐野市分科会

浅草発、さのちゃり!!

足利市分科会

「歴史と文化と花のまち足利」が挑む里山資源を生かした地域づくり

栃木市分科会

地域の「くう」「のむ」「まなぶ」をつなぐ「わ」のまち栃木市

小山市・下野市分科会

「何もない!？」から始まった地域づくりのアレやコレ!!

大田原市分科会

古代から現代へ人が輝く生涯活躍できるまちづくり

矢板市分科会

矢板市が挑む! 資源再活用 of これからの新しい地域づくり

那珂川町分科会

世界でただ一つの陶芸にチャレンジ・農家民泊、棚田オーナークラブで地域づくり

宇都宮市分科会

「大谷石(おおやいし)」を中心とした観光地域づくり

茂木町分科会

里山の恵みを活かしたまちづくり「しあわせの、自給自足」

真岡市分科会

人づくり×つながりづくり×地域づくり ~「まちつく」の取組から~



全体交流会 開会あいさつ

地域づくり団体全国協議会 会長 西村 幸夫

皆さん第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会全体交流会にお集まりくださりましてありがとうございます。

また、栃木県知事、宇都宮市長にもご臨席いただきまして、本当にありがとうございます。この大会のために、栃木県の皆さんは随分長い間準備をされたと思います。

私も昨年10月に行われたプレ大会にも伺いましたし、今回は宇都宮市の大谷石の里を舞台に開催された第1分科会で2日間過ごしましたが、プログラムも満載で、様々な体験をさせていただきました。



宇都宮市以外の分科会においても、それぞれの特性を活かした体験プログラムが満載で、プログラム自体から「自分たちのところによく来てくれた」という気持ちが溢れていて、どの分科会のお話を伺っても、熱い思いで迎えてくださっている地元関係者の方々の強い気持ちが伝わって参りました。

今日はこれから、13分科会に分かれて2日間に渡り様々な活動を体験したメンバーが一堂に会し親睦を深める全体交流会が開催されますが、私も全国各地から集まったメンバーの方々と交流し、これからの地域づくりのために皆さんからの元気をもらい、また、栃木の皆さんからも元気をもらって、明日の全体会にも備えたいと思います。

今日は本当にこの会にお集まりいただきまして本当にありがとうございました。





栃木県知事 福田 富一

第41回の地域づくり団体全国研修会交流会栃木大会へようこそお越しくございました。本日、第6分科会に行かれた方が大勢いらっしゃると思いますが、私はその日光市出身です。

日光市は、今市市、足尾町、日光市、藤原町、栗山村の5市町村が合併して誕生しました。

人気アニメ「秘密結社鷹の爪」、作品の舞台は出雲ですが、この作品に登場する総統が日光市の旧今市市出身という設定です。



地域をどのように活性化させていくかは、行政にとって大きな課題です。県内13分科会の活動状況をご覧いただきましたが、私の出身地の周辺も含め、実態として大変厳しい地域はたくさんあります。

しかし、県内25市町と県が一体となり、そして今日お越しいただきました西村会長をはじめ、手塚実行委員長、皆様方と連携しながら、そこに住む人々が生きがいと希望を持って、そして健康で明るく生活できる地域づくりを進めてまいりたいと思っております。

さて、本大会のテーマである「こでらんねえ栃木県」ですが、「こでらんねえ」という言葉の意味は「耐えられないほど素晴らしい」という意味でございます。「見ざる言わざる聞かざるじゃあもったいねえ、こでらんねえ栃木県」を存分に体感していただきたいと思っております。

栃木は、56年連続生産量日本一を誇る“いちご王国”でございますが、今は梨の出荷シーズンでございます。本県が開発した赤ちゃんの頭ほどの大きさの「にっこり」という品種があります。これが非常に美味しく、お土産に最高ですので是非ご賞味ください！また、令和の大嘗祭(だいじょうさい)において、東日本から栃木県が悠紀(ゆき)地方に選定され栃木県のお米「とちぎの星」が供納されました。この「とちぎの星」は、大粒で高温に強く高品質を維持できる特性を持っており、大変美味しいお米でございます。本日の交流会でも、このお米をはじめ栃木の美味しいものが沢山テーブルに並んでおりますので、食を通して栃木の魅力を感じていただければと思います。

全国からお越しいただきました皆様をご歓迎申し上げるとともに、栃木の良さに触れていただきながら、分科会や交流会などで得た貴重な経験を地域に持ち帰り、それぞれの活動に生かしていただければと思います。47都道府県が共に発展できるよう、皆様に活躍していただきますようお願いを申し上げ、歓迎と交流会のご盛会をお祝いする言葉といたします。おめでとうございます。

全体交流会 来賓あいさつ

(一財)地域活性化センター 理事長 林崎 理 様



ただいまご紹介に預かりました、一般財団法人地域活性化センター理事長の林崎でございます。第41回目の「地域づくり団体全国研修交流会」、栃木大会開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

私ども地域活性化センターは平成 6 年度から地域づくり団体全国協議会の事務局を務め、30年以上にわたり地域づくり団体の活動支援を行って参りました。

本日は、栃木市で開催された第3分科会に参加して参りまして、「嘉右衛門町」という伝統的建造物が沢山

集まっているところの状況など拝見しましたが、本当に多様なNPOや地元の皆さんが頑張っているのを目の当たりにし、地域づくり団体の大切さというものを改めて強く感じた次第でございます。

栃木県では去年の10月に全国大会のプレ大会が開催されまして、私もそこに参加しておりましたが、栃木大会の実行委員長であります手塚将之様を始め、関係の皆様から地域を大切に思う熱い気持ちが伝わって参りまして、今日、このこでらんねえ全国大会を心待ちにしていたところでございます。

先ほど申し上げましたように、第 3 分科会を回って参りましたが、自分たちの持っている魅力のようなものを、だんだん掘り起こしていき、そこに着実に手を加えて工夫をされてやってきている。まだまだできることはたくさんあるようにも思いましたが、それを焦らずに1 つ 1 つ着実に前に進めていらっしゃる。その姿に今度来た時はどうなっているんだろうという、期待や希望が持てる。やはり地域づくりをしていく上で未来に向かって希望が持てるということが、いかに大事かということをお今日また感じた次第でございます。

本大会の開催には、関係者の皆様のご尽力と、県内外から多くの皆様にご参加いただくことが必要不可欠でございまして、今日こうして一堂に会することができましたので、大いに交流を深めていただき、この全国大会で得た知識と熱い想いを地元を持ち帰っていただき、今後に生かしていただければと思います。

最後になりましたが、今大会の開催にあたりご尽力いただきました栃木大会実行委員会の皆様、そして栃木県及び県内市町の関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、本大会の成功をご祈念申し上げまして、私からのご挨拶とさせていただきます、今日は大いに盛り上がりましょう。よろしくお願ひいたします。



宇都宮市長 佐藤 栄一 様

皆様、こんばんは。ご紹介いただきました宇都宮市長の佐藤栄一でございます。本日は多くの皆様方にお集まりをいただき、まちづくりについて議論いただきましたことは誠に喜ばしく、心から御礼申し上げます。

宇都宮市は、今回の分科会の会場として大谷地域を選定しました。大谷石文化は、日本遺産として指定されており、さらに大谷地域は、「重要文化的景観」として国の選定を受けました。



また、本市が誇る「餃子」・「ジャズ」・「カクテル」の中から、本日は、本市の代名詞である「うつのみや餃子」の「みんな」さんに出店いただきました。県外の方からおすすめのお店を聞かれますが、私の立場では特定のお店を申し上げることはできませんので、餃子の食べ比べなど、是非、この機会に「餃子のまち・宇都宮」の魅力を存分にお楽しみいただければと思います。

そして、先ほど乾杯の地酒として、宇都宮の「四季桜」の紹介がありましたが、濁りのない澄んだ口あたりが特徴で「四季さくら」と読みます。こちらも是非、皆様にもぜひ覚えていただき、御家族、御友人にも広めていただければと思います。

また、本市にお越しいただいた皆様には、ライトライン(LRT)にもご乗車いただきたいと思います。ライトラインは、19 箇所の停留場があり、川を渡ったりトンネルをくぐったりと、普通の路面電車ではあまり見られない風景を楽しむことができます。音も静かで、揺れも少なく、つり革につかまらなくても終点まで立っていられるほど、安定した最新の乗り物です。是非ご利用いただきたいと思います。

それでは、貴会のますますの御発展と、皆様方の御健勝を祈念いたしまして、乾杯！





分科会の概要

1日目は、大谷の周遊観光拠点施設である大谷コネクで大谷地域の概要やNPO法人大谷商工観光協力会の活動紹介を行いました。

その後、地域内を運行する電気自動車(グリーンスローモビリティ)を使用して大谷資料館まで移動しました。大谷資料館ではガイドの案内により、大谷石採取場跡地の神秘的な空間を見学しました。

その後、地域で活動する事業者によるパネルディスカッションを実施し、参加者との質疑応答を通じて交流を深めました。

2日目は、ガイド付き徒歩ツアーにより大谷特有の景観を体感いただいた後、現役採石場や体験型アート作品「元気炉」を見学しました。さらに、大谷石を用いたアート体験や石蔵カフェでの休憩、陶芸体験を行い、交流と学びを深める機会となりました。



大谷石の奇岩を巡る徒歩ツアー



コーディネーターを務めた平野さん

分科会スケジュール

1日目

- 13:00 JR宇都宮駅東口集合
- 13:40 大谷活動紹介・グリーンスローモビリティ乗車体験
- 15:15 大谷資料館見学
- 17:00 パネルディスカッション
- 18:00 分科会交流会

2日目

- 8:30 ホテル出発
- 9:00 奇岩群を巡る徒歩ツアー
- 10:30 採石場見学
- 12:30 現代アート見学(元気炉)
- 13:30 大谷石絵付け体験
- 15:00 カフェ見学
- 16:00 陶芸体験
- 17:30 全体交流会会場到着

活動紹介

大谷町の新たな観光・周遊の拠点として、令和5年にオープンした大谷コネクトにある、大谷石を構造体とした公会堂建築であり国登録有形文化財「旧大谷公会堂」内において、大谷地域の紹介や大谷地域の商店・飲食店が加盟するNPO法人大谷商工観光協力会の活動紹介の説明を受けました。



グリーンスローモビリティ乗車体験

大谷地域を運行しているグリーンスローモビリティの乗車体験を行いました。最高時速20km未満で窓ガラスがない車両です。観光ガイドも兼ねているドライバーさんとの会話も楽しみながら、次の目的地である大谷資料館まで、大谷町の景観と風を感じながら、大谷の景色をゆったり味わっていただきました。

大谷資料館見学

大谷石の採取場跡地を活用した観光施設である大谷資料館の見学をしました。深さ約30メートルに及ぶ広大な空間内をガイドの方の案内により、大谷石の歴史や文化、産業価値について説明を受けました。見学終了後、施設に隣接したカフェ「ROCKSIDE MARKET」にて買い物などを楽しんでいただきました。



パネルディスカッション

大谷コネクトに戻り、大谷地域で活躍する事業者の皆さまを招き、個々の活動内容を紹介するパネルディスカッションを実施しました。登壇者は観光業、建設業、飲食業、大谷石の加工販売業など多種多様で、それぞれの視点から事業者の話を伺いました。パネルディスカッション後は時間いっぱいまで参加者の皆さまからの質問が寄せられ、有意義な意見交換ができました。

分科会交流会

交流会開催会場ベルテラシェ大谷の小堀支配人のご挨拶を皮切りに、交流会がスタートしました。会場には、大谷地域の飲食店の皆さまが腕を振るった地元食材をふんだんに使ったオードブルが並び、宇都宮の地酒も堪能していただきました。

立食形式ならではのくだけた雰囲気の中、参加者同士が交流を深め、会場は終始大盛り上がりの楽しい時間となりました。



奇岩群を巡る徒歩ツアー

快晴の中、大谷石の岩肌に囲まれた大谷公園や日本最古級の石仏である「大谷観音」を見学できる大谷寺、国の重要文化的景観にも選定された大谷の奇岩群を巡る徒歩ツアーを実施し、宇都宮シティガイドの方の解説により、大谷石の歴史への理解も深めていただきながら、壮大な奇岩群を散策しました。



カネホン採石場見学

最盛期では120者あった採石事業者も現在では4者のみとなっています。そのうちの1つである「カネホン採石場」の見学を実施しました。ツアーガイドの方の説明のもと、現役の採石事業者の中でも唯一の「露天掘り」という採石方法をとる、生の採石現場を体感いただきました。



現代アート見学(元気炉)

現代美術家である栗林隆氏が制作した体験型アートインスタレーションである「元気炉」を見学しました。採石場跡地の空間に屹立する巨木のような施設で、施設管理者により、栗林隆氏の制作への思いなどについて説明をいただき、参加者の皆さまには日常では味わえない空間を存分に堪能いただきました。



カフェ見学(キジハジメテナク)

大谷石蔵を改装したカフェ「キジハジメテナク」にて名物のモンブランと季節ごとに厳選したこだわりの日本茶を味わいました。坂本オーナーからカフェ運営への思いを伺った後、次の体験時間まで各々目の前に広がる広大な風景を眺めながら、“のんびり時間”を満喫していただきました。



大谷石絵付け・陶芸体験

大谷石への絵付けやデコパージュなど複数のメニューの中から参加者の皆さまにお好きなメニューを選んで体験いただきました。時間を忘れるほど熱中している方も見られ、体験を満喫していただけたようです。

その後、30年前から大谷町に工房を構え、陶芸活動を行っている谷口勇三氏による陶芸体験を実施しました。製作した作品は後日焼き上げて郵送となりますが、皆さま完成品の到着を心待ちにしている様子でした。





参加者アンケート紹介

- 地域の方の地域振興に対する意識の高さを感じました。主体的に目的を持って事業に取り組まれており、行政と両輪でうまく回っている様子が分かり、お手本にしたいと思いました。
- 宇都宮市という大きな自治体の中で、特異な産業や歴史をもつ地域の活性化に取り組む人たちに感激しました。
- 大谷地区に生まれた皆さん、集まった皆さんがそれぞれの関心ごとや、強みを活かしながら活動をされている様子に感動しました。

参加者内訳

参加者19名

- ◆宮崎県5名 ◆和歌山県3名
- ◆東京都3名 ◆長野県2名
- ◆三重県1名 ◆大阪府1名
- ◆島根県1名 ◆福岡県1名
- ◆長崎県1名 ◆沖縄県1名

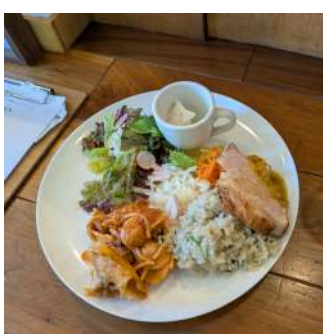


分科会を振り返って

大谷地域で活躍する事業者の皆さまと参加者の皆さまが、さまざまな場面で交流する機会を持つことができ、お互いの地域での活動や意見交換を行うなど、刺激のある内容となりました。

観光資源や人は違っても「思い」が地域を盛り上げる。ということは、全国共通なことを実感した分科会となりました。

宇都宮市大谷地域に初めて訪れる参加者も多く、大谷石が生み出す特異な景観や、採石場、大谷石を使った様々な体験など、大谷石尽くしの2日間を満喫していただきました。



「歴史と文化と花のまち足利」が挑む 里山資源を生かした地域づくり



分科会の概要

今回は、足利市の歴史や文化などを活かした活動や、里山エリアにおける新たな地域づくりの取り組みをテーマに、学んでいただきました。

分科会1日目、まずは昼食と交流の時間を設け、参加者の皆さんとの懇親を深めました。続いて、地域おこし協力隊OGによる地域づくりについての講話があり、その後、まちなかの見学や、廃校を活用した美術館での体験を経て、あしかがフラワーパークに到着。イルミネーションの鑑賞や分科会交流会で皆さんとの会話が花が咲きました。

2日目は、市北部の里山エリアに会場を移し、麦細工やバードコールづくり、イワナ釣りを体験。その後、キャンプ場で昼食をとり、ワイナリーを見学しました。

分科会終了後、足利市には歴史や文化、観光など様々なコンテンツがあり、とても魅力的であるとお声をいただきました。



史跡足利学校の見学



COCOFARM&WINERYの見学

分科会スケジュール

1日目

- 11:45 東武足利市駅集合
- 12:00 JR足利駅集合
- 12:20 昼食、アイスブレイク
(たびするおでんもっくもっく)
- 14:00 見学
(史跡足利学校、鑊阿寺、石畳通り)
- 16:50 見学、ワークショップ
(大久保分校スタートアップミュージアム)
- 17:45 見学、分科会交流会
(あしかがフラワーパーク)

2日目

- 9:00 ホテル出発
- 9:30 ワークショップ
(名草craftセンター)
- 11:00 イワナ釣り体験、ワークショップ、昼食
(名草イワナパーク、名草キャンプ村)
- 13:30 見学
(COCOFARM&WINERY)
- 17:30 全体交流会会場到着

たびするおでんもっくもっく&なべのそこ (昼食、座学、アイスブレイク)

「もっくもっく」は、Uターンしたご夫婦が営んでいるおでん屋さんで、古民家をリノベーションしたお店です。おかみさんは、地域おこし協力隊OGの木村さんです。

昼食後に木村さんが運営しているレンタルスペース「なべのそこ」で参加者の方々からの自己紹介の後、木村さんから、移住者目線でのまちの魅力について、お話を伺いました。



史跡足利学校(見学)

日本最古の学校といわれる「史跡足利学校」は、参加者の方の自己紹介の中でも、「見学が楽しみ」といったお声をいただきました。

現地では、史跡足利学校事務所長から学校の歴史や文化財としての価値などの説明をいただきました。通常は立ち入れない書院も見学することができ、当時の学び舎の雰囲気を感じていただくことができました。



鏝阿寺(見学)

「鏝阿寺」は、鎌倉時代に建立された国宝の本堂をはじめ、多くの文化財を有する古刹です。その敷地は鎌倉時代の武家屋敷の面影を今に伝える館跡として日本100名城にも登録されています。

史跡足利学校のすぐ裏手にあり、風情ある石畳通りを歩いて移動後、由緒や文化財の価値などについて史跡足利学校事務所長に引き続き説明を受け、その後、境内や石畳通りを自由に散策しました。



大久保分校スタートアップ ミュージアム(見学・体験)

「大久保分校スタートアップミュージアム」は、廃校を活用して令和4年にオープンした現代アート施設です。ディレクターを務める地域おこし協力隊OGの秋山さんに施設の概要や活動についてお話を伺い、その後、館内の工房でシルクスクリーンを体験しました。

足利市を流れる渡良瀬川にかかる2つの橋(市民のシンボリックな「中橋」と歌のタイトルでも知られる「渡良瀬橋」)のデザインから1つを選択いただくと、皆さんはエコバックへ丁寧にプリントされていました。



あしかがフラワーパーク (座学・見学)

600畳敷きの大藤で知られる「あしかがフラワーパーク」は、日本一の称号も得たイルミネーションがきらめく足利市で最大の観光スポットです。同園では、長年運営に携わる長谷川さんから、地域に根付いた企業としての活動理念や新たなチャレンジ、地域との連携の話などのお話を伺い、その後の見学では、500万球を超えるLEDライトの輝きと藤の香りの演出に参加者の方々も感動されていました。



分科会交流会

「あしかがフラワーパーク」にて、皆さんにイルミネーションを鑑賞いただいた後、園内のレストランで分科会交流会を開催しました。

交流会には地域活動を熱心に実践される地域の方々も加わり、地場の食材を使った料理や地元ワイナリーのお酒などを嗜みながら、これまでの地域づくりについての経験談や熱い思いなどを語り合い、さらに親睦が深まりました。



名草craftセンター(座学、体験)

名草地区にある「名草craftセンター」では、集落支援員が手掛ける耕作放棄地の活用などの話があり、その後、同センターで収穫した大麦の藁を使用して、来年の干支に因んだ馬を編む藁細工体験にチャレンジ。皆さん熱心に藁を編み上げ、作品を完成させました。



名草イワナパーク(座学、体験)

名草の奥にある「名草イワナパーク」は、地域の方々は何年もかけて作り上げた施設です。

代表の芳川さんから、立ち上げ当初の苦労話や地域ならではの魅力ある施設づくりの思い、今後の承継などについてお話を伺いました。

その後のイワナ釣りでは、各々がイワナを釣り上げ、童心に返ったかのような、大興奮のひと時となりました。



名草キャンプ村(体験、昼食)

名草イワナパークから遊歩道を散策しながら「名草キャンプ村」へ移動し、運営を担う津布子夫妻から説明を受け、バードコールづくりに挑戦しました。完成したバードコールは「キュン、キュン」と愛らしい音を鳴らし、緑に囲まれた中で、心とむ時間となりました。

その後、イワナの塩焼きや手作りのおにぎり弁当をはじめとした昼食では、イワナは骨まで柔らかく丸ごと食べることができました。また、名草産のなめこ汁や焼き芋、旬の柿など、景色も相まって、とても美味しくいただくことができました。



COCOFARM & WINERY(見学)

九州・沖縄サミットなどでも振舞われたワインを製造する「COCOFARM & WINERY」では、代表理事の池上さんから、教員であった創業者が障がい者支援のために試行錯誤を繰り返し、ぶどうの栽培に辿り着いたことや、農福連携といった知恵を絞りワイナリーが成立したことなど、ワインのテイスティングを交えながらお話を伺いましたが、どちらも深く心に沁みる内容でした。





参加者アンケート紹介

- 足利の魅力として、まちと里山が近接している点が挙げられます。国宝を含む文化的・歴史的資源と、それを支えてきた町、さらに里山の営みが互いに近い距離で結びついており、来訪者にとってもその一体感が実感できました。特に、名草地域の産品を「もっくもっく」で提供するなど、地域内の各プレイヤーの連携の強さが随所に表れており、非常に印象深かったです。
- 元地域おこし協力隊の方々、地域の魅力を活かして活動を続けられているところに感動しました。また、地域で活動されている皆さんも、どこかの真似ではなく、独自のこだわりを活かしながら地域まちづくりを進めておられるところに感銘を受けました。

参加者内訳

参加者9名

- ◆沖縄県3名 ◆埼玉県1名
- ◆大阪府1名 ◆長野県1名
- ◆兵庫県1名 ◆福岡県1名
- ◆長崎県1名

分科会を振り返って

移住者として足利を見つめてきたつもりでしたが、参加者の皆さんと巡る中で、自分がいつの間にか“内側の人間”になっていたことに気づかされました。

改めて参加者の皆さんから足利の良さを教えていただくとともに、私たちが積み重ねてきた取り組みが、少しでも足利の“厚み”として届いていることを嬉しく感じました。

いただいた気づきや学びを、今後の活動にも生かしていきたいと思えます。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。爽りのある楽しい2日間でした！



大中寺の七不思議の紹介

「雨月物語」に登場する大中寺(ダ イウガ)境内において、大平町観光ボランティアの会により、大中寺に伝わる七不思議の伝説の紙芝居を行いました。

その後、境内をめぐりながら七不思議の見学・説明を行いました。



活動紹介(大平地域)

【大平わいわいテラス】

栃木市自治基本条例に基づいて、大平地域の新しいまちづくり組織として、自分たちでできること、やりたいことを出し合って市民主体のまちづくりを実施しています。おおひら世間遺産プロジェクトを一押し事業として発表しました。

【太平山南山麓友の会】

地域の七不思議伝説にちなんだ七つの農作物オーナー制度や、トレッキングガイド、ぶどう観光ガイド、独自のワインの委託製造と販売など、地元資源を活かした活動をしています。

【田村律之助顕彰会】

栃木市大平町出身のビール麦の父「田村律之助」の功績を伝承するため、地域の子供達との昔の農作業体験や、オリジナルのクラフトビールの委託製造販売など、様々な活動を通して、地域の魅力を伝える活動をしています。

焼いも談議

おおひら世間遺産パネルを設置した屋外特設会場において、地元で収穫されたさつまいもを使用した焼き芋や、ビール麦を原料にしたお菓子、大平のぶどうを原料にしたワインや、大平のビール麦を原料にしたクラフトビールなど、地域の魅力ある農産加工品を楽しみつつ、それぞれの団体の活動を報告しあいながら、個人個人が思い思いの交流を広げることができました。



分科会交流会

地ビール、地場産ワインなどを堪能していたたきながら、市民団体の皆さんと交流を深めました。次回開催地の方からPRもしていただきました。



とちぎ歌麿交流館(活動紹介)



「歌麿を活かしたまちづくり協議会」の阿部氏より、江戸時代の浮世絵師・喜多川歌麿ゆかりの地として、歌麿にちなんだイベントや制作物など、さまざまな取り組みを紹介しました。

拠点としているとちぎ歌麿交流館では、歴史的建造物を活かしながら、歌麿作品の複製や、栃木との関係が分かる資料等を展示しています。

嘉右衛門町伝建地区散策・活動説明

本大会実行委員の遠藤氏(NPO法人嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会事務局)から、栃木県内唯一の重要伝統的建造物群保存地区を案内しました。

また、伝建地区内にある交流館で、歴史的町並み景観の保存・形成等の活動をしている「NPO法人嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会」の活動紹介を行いました。



蔵の街遊覧船

栃木市の観光名所・蔵の街遊覧船にて、NPO法人蔵の街遊覧船の船頭から、これまでのNPOの歴史と季節ごとの取り組みについて紹介しました。

その後、参加者には実際に遊覧船に乗船してもらい、蔵の街とちぎの歴史を学びながら、今も残る蔵の景観を堪能していただきました。



テーマ別まち歩き

参加者には事前に興味のあるコースを選んでもらい、3グループに分かれてまち歩きをしました。

【まちの歴史・歌麿コース】

栃木市の観光・歴史を知り尽くす「栃木市観光ボランティア協会」の清田会長が、本市の歴史と本市とゆかりのある喜多川歌麿作品が展示されている市立美術館等を案内しました。

【歴史的建造物コース】

蔵の修理や保全を行う、全国でも珍しい職人集団「NPO法人とちぎ蔵の街職人塾」の山本氏が、歴史的建造物である横山郷土館の古い建物の特徴・見方を案内しました。

【高校生おすすめスポットコース】

学校の垣根を超えた市内高校生のまちづくり活動団体「高校生蔵部」の学生が、蔵部が作成した蔵の街散策マップを片手に、おすすめスポット(お店)を案内しました。





参加者アンケート紹介

- 地域の皆さんが生き活きと楽しみながら地域づくりに取り組み、行政もサポートし一体感をもった体制となっていることに感銘を受けた。
- 蔵のまちである栃木市の暮らしぶりや若い人たちの取り組みが聞けて参考になりました。
- 地域の資源を活用し、地域の人、外からの人、高校生、行政がバランスよく力を出し合い協力しているように感じた。
- 栃木市の歴史的建造物を活かしたまちづくりが大変勉強になりました。伝建地区であったり、喜多川歌麿の文化を市民の力で守っている様子が印象的でした。

参加者内訳

参加者17名

- ◆宮崎県5名 ◆東京都3名
- ◆群馬県2名 ◆島根県2名
- ◆熊本県2名 ◆長野県1名
- ◆和歌山県1名 ◆福岡県1名

分科会を振り返って

栃木市は“市民活動がとても盛んな街”です。全国から集まるプレイヤーの皆さんに、それぞれの団体の活動を見ていただきたいと思い、第3分科会では合計10団体、高校生から80代まで、総勢30名以上の市民の皆さんに関わっていただきました。フィールドも里山から観光地、テーマも様々だったので、どこからヒントになる部分はあったのではないかと思います。また栃木市に来たい、移住したい！と言った声も多数挙がり、満足いただけたかと思えます。



浅草発、さのちゃり！！



分科会の概要

今回のテーマは「浅草発、さのちゃり！！」、

佐野市北部の中山間地域(愛称:奥佐野)において自転車をツールに地域の活性化と魅力を発信するべく活動している「サイクルタウンさの推進委員会」が主催し、サイクリストや地域の方々にとって自転車での生活がしやすい環境整備を推進し、交流人口及び関係人口の増加を目指す取組を体験していただきました。

1日目は、まず東武浅草駅に集合し、臨時列車スカイツリートレインに乗車して、東武葛生駅に向かいました。東武葛生駅からバスに乗って蓬山レストランに移動し、そば打ち体験を行い、昼食後、自転車に乗って日本名水百選に選ばれている出流原弁天池までサイクリングをしました。

2日目は、佐野らーめんの特徴である青竹を使った麺打ち体験を行い、その後、唐沢山城跡をボランティアガイドの方に案内してもらいながら見学しました。2日間を通して、佐野市の豊かな自然や食文化、歴史を満喫していただきました。



スカイツリートレイン

分科会スケジュール

1日目

- 9:30 東武浅草駅スカイツリートレイン
- 13:00 そば打ち体験(昼食)
- 14:00 サイクリング
- 15:30 出流原弁天池見学・
いもフライ試食
- 18:00 分科会交流会

2日目

- 9:00 ホテル出発
- 9:30 佐野らーめん青竹打ち体験・試食
- 12:00 唐沢山城跡散策
- 13:30 昼食
(佐野らーめん 佐よし)
- 15:00 道の駅どまんなかたぬま
- 17:30 全体交流会会場到着

スカイツリートレイン

東武浅草駅より臨時列車スカイツリートレインに乗車しました。4両編成の電車を参加者とスタッフ合計12名で貸し切り、優雅なひと時を過ごしました。浅草駅を出発する際には、東武鉄道株式会社・東武トップツアーズ株式会社の担当の皆様に見送りをいただきました。約2時間の乗車でしたが、車内では参加者の自己紹介やサイクルタウンさの推進委員会の取組紹介を行いました。残った時間は後方の車両で参加者同士が談笑する様子が見られました。



そば打ち体験(昼食)

市北部の中山間地域にある蓬山レストランにてそば打ち体験を行いました。生地をこねる工程では、耳たぶほどの硬さを目指し、参加者全員が協力して取り組んでいました。自分たちで打ったそばの味は格別でした。



サイクリング

蓬山レストランから出流原弁天池までの約30kmの道のりを紅葉を横目にサイクリングをしました。

途中、サイクルスタンドを設置していただいている御菓子処太田屋さんに立ち寄り、佐野ブランド認証品である「しんこまんじゅう」を試食しました。天候にも恵まれ、絶好のサイクリング日和でした。

出流原弁天池

日本名水百選に選ばれた出流原弁天池を見学し、近くの福寿荘売店でB級グルメ「いもフライ」を試食しました。福寿荘の店主である小倉さんからサイクルタウンさの推進委員会との連携事業などについてお話を伺いました。サイクリングで疲れた体に、ホクホクのジャガイモと甘じょっぱいソースが沁みわたりました。



分科会交流会

金子佐野市長より歓迎のあいさつをいただき、栃木県内最古の酒造といわれている「第一酒造」日本酒スパークリングで乾杯をしました。食事のメニューには、いもフライや黒から揚げなど、佐野市の名物グルメが並びました。佐野ブランドキャラクター「さのまる」もサプライズで登場し、一緒に記念写真を撮影するなど大いに盛り上がりしました。



佐野らーめん青竹打ち体験

佐野らーめん予備校の代表である若田部さんのご指導のもと、「佐野らーめん食育キット」を使い、青竹打ち体験をしました。使用した青竹は体験用のミニチュアサイズでしたが、実際に店舗で使用しているサイズの青竹も見せていただきました。前日のそば打ち体験での経験が活かされたためか、お店さながらの出来栄となりました。



唐沢山城跡

戦国時代に佐野氏が居城し、交通要衝の地にあたるため、本城をめぐる何度も戦いがあった唐沢山城跡を史跡唐沢山城跡保存会のボランティアガイドの方に解説をしていただきながら見学しました。高さ8mを超える高石垣を写真に収める参加者が多くいました。見学の最後には、唐沢山城本丸跡に創建された唐澤山神社の佐野宮司からもお話を伺いました。



昼食(佐野らーめん 佐よし)

佐野らーめん予備校の卒業生でもある佐藤さんが営む「佐野らーめん 佐よし」で昼食をとりました。ラーメンと餃子のセットに参加者も大変満足していました。「プロの味はひと味違う！」といった感想も聞かれました。





参加者アンケート紹介

- みんなで走った奥佐野は最高！自転車で繋いだ人の熱意や地域を大切に
する姿が素敵でした！
- 奥佐野の魅力、団体の取り組みなど大変勉強になりました。同時に浅草から
の貸切列車や30キロ近い行程のサイクリング体験など、他の分科会に負
けないエッジの効いた内容で、貴重な経験をさせていただきました。
- 佐野市の各地に訪れた際に、佐野市の皆様よりようこそ、こんにちはとお声
をかけていただくことが多く、印象的でした。
- まず、佐野市には地域づくりに熱意のある方がたくさんいらっしゃることに
感動しました。そして、行政と民間企業や団体が積極的に連携して地域を良
くしようとしている事を感じました。

参加者内訳

参加者7名

- ◆栃木県2名 ◆沖縄県2名
- ◆東京都1名 ◆長野県1名
- ◆福岡県1名

分科会を振り返って

第4分科会では、他の分科会にはない「尖った」分科会を目指し準備を進めてきました。その中で私たちの活動を知っていただきつつ、楽しんでいただくためにどうすべきか…と頭を抱える日々でしたが、参加いただいた方々の笑顔がたくさん見られ、私たちも良い経験をさせていただきました。参加者の皆様からの感想では、「地域づくりへの熱意を感じた」や「行政・地域づくり団体・民間企業が一体となって取り組んでいることが分かった」というお声を多くいただきました。沢山の方々とのご縁に感謝しています。ありがとうございました。



『シニアサポート モビリティ』と 『耕作放棄地で生まれる至極の慈しみそば』



鹿沼市役所前で記念写真

分科会の概要

第5分科会のテーマは「つながり」です。「人の想いをつなぐ」「地域の暮らしをつなぐ」をテーマに活動されている2つの地域団体にお話しを聞きました。

スマイルきくさわ 事例紹介

1日目は、菊沢地区で活躍されている「スマイルきくさわ」が取り組むシニアサポートモビリティです。菊沢地区は、高齢者の移動困難解消のため、2019年より住民協働の送迎サービス「きくさわスマイル号」を展開しています。本取組は、利用者の生活を支援し、地域住民間の交流を促進するだけでなく、見守りにもつながり、運行実績も増加傾向にあります。利用者の「ありがとう、助かった。」という笑顔が、取組継続の原動力となっているそうです。

高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、今日も高齢者の笑顔と共に車を走らせます。



事例紹介

分科会スケジュール

1日目

- 12:00 JR宇都宮駅東口集合
- 13:00 「スマイルきくさわ」活動紹介
パネルディスカッション
「スマイル音頭」体験
- 15:25 まちなか散策
- 18:00 分科会交流会

2日目

- 9:00 ホテル出発
- 9:30 「板荷畑いつくし美会」活動紹介
そば打ち体験
- 13:15 南摩ダム、スノーピーク見学
- 15:15 組子体験(コースター作り)
- 17:00 全体交流会会場到着

運営スタッフによるパネルディスカッション

地域課題であった高齢者の移動手段の確保に対して、地域住民及び各種団体が、手を携えて走り続けた活動の経緯を伺いました。

継続のヒントは「つながりづくり」だと言います。「できる人が、できるときに、できることを。」の考え方を基に、様々な人が少しずつ携わることが大切だということです。

サービス利用者だけでなく、運営スタッフ自身も、本取組をとおして充実感を得られていることがポイントだと話されました。



パネルディスカッション



きくさわスマイル号(送迎車両)



スマイル音頭 集合写真



スマイル音頭

スマイル音頭

地元有志による手作りで本取組を表現したオリジナル音頭「スマイル音頭」を参加者みんなで体験しました。

「感謝感謝のお年寄り あヨイヨイ

笑顔挨拶顔と顔 外出楽しい今日も又

予約の電話に胸おどる サノ ヨイヨイ」と、スマイルきくさわの活動を描いた歌詞を軽快なリズムに乗せて奏でるメロディーに、参加者もみんな笑顔に楽しく踊りました。

分科会交流会

参加者、地域団体、鹿沼市長が、一同に会した交流会を日本料理「みしま」で行いました。

地の物をふんだんに使った料理や地酒に酔いしれながら、これからの地域づくりについて、楽しく語り合いました。

最後には、いちご市鹿沼ならではの「15(いちご)ポーズ」で写真を撮影後、「15(いちご)締め」で締めくくりました。



分科会交流会

板荷畑いつくし美会 事例紹介

2日目は、板荷地区で活躍されている「板荷畑いつくし美会」が取り組む耕作放棄地対策です。

板荷地区では、人口減少が進行し、農家の担い手不足が深刻でした。これを解消しようと、地域の有志が立ち上がり、耕作放棄地や獣害対策を講じたことで、農地の保全、獣害被害の減少、住民の郷土愛や互助精神の醸成、多世代交流といった成果を生み出すことに成功しました。

特に、耕作放棄地におけるそば栽培を契機に、そば店開設、無人直売所運営など経済活動にも繋げ、地域の「負のスパイラル」を反転させています。

地域を愛する住民の繋がりを強固に、これからも住み続けられるまちづくりに励みます。



事例紹介

そば打ち体験

事例紹介の後は、現地でとれたそば粉を使ったそば打ち体験を行いました。参加者の皆さんは、そば粉の繊細さに苦労しつつも、楽しみながら体験をされました。その後は、自分で打ったそばをおいしく堪能しました。



そば打ち体験

鹿沼組子体験

「鹿沼組子」とは、釘や金具を一切使わず、細かく加工した木材を一つひとつ手作業で組み合わせる鹿沼市の伝統的な木工技術のことです。

この技術は、日光東照宮の造営時に集まった職人技術が今なお残るもので、参加者は木工のまちの文化に触れながら、その精巧な作りに驚嘆していました。



鹿沼組子体験

南摩ダム・スノーピーク視察



南摩ダム眺望



南摩ダムの視察



スノーピーク



彫刻屋台



まちなか散策

参加者アンケート紹介

- 地域を作っているのはまさに人だと感じた。ただ、後継者不足の問題はどこも抱えており、対策が必要だと感じた。
- 人の喜びを自分の幸せに変えられる方々の姿に感動した。
- 送迎サービスや無人直売所について、自分の地域でも取り組めないか検討したい。
- 地域の皆さんが楽しんで関与していることが素晴らしい。みんなで楽しむ懇親会の実施が重要なんだと感じた。
- 地域課題に向かうにあたり、地域の一体感が重要だと改めて認識した。また、課題解決を目指しながら、活動が地域の活力になっていることが継続に繋がっていると感じた。
- 地域の高齢の方々が元気に地域を盛り上げている。そこに若者が交流することで、伝統文化が伝承されていると感じた。

参加者内訳

参加者9名

- ◆栃木県4名 ◆青森県1名
- ◆埼玉県1名 ◆東京都1名
- ◆長野県1名 ◆長崎県1名

分科会を振り返って

第5分科会は「つながり」をテーマに開催しました。本分科会では、参加者の皆様が取り組んでいらっしゃる活動や、それぞれの「つながり」について共有いただきました。事例発表者からは、「分科会の準備や当日の活動を通じて、改めて地域の絆を再認識できた。」との声も聞かれました。

全国各地で地域活動に携わる参加者間の交流も活発に行われ、互いに学び合い、今後の活動に活かせる情報交換ができたことも大きな収穫でした。何よりも、全国の地域づくりを担う方々との新たな「つながり」が生まれたことは、本分科会の大きな成果であり、大変意義深い機会となりました。



そば打ち体験会場



きびがら細工(お土産)



南摩ダム前

繁栄の「光と影」から掘り起こす、
地域資源の活かし方



分科会の概要

第6分科会の参加者は、国内外からの観光客で賑わう東武日光駅前を出発しました。バスの車窓からは、紅葉のピークを迎え鮮やかに色づく山並みを満喫しながら、1日目のフィールドである足尾地域に到着しました。

足尾銅山記念館見学

まず、令和7年8月にオープンした足尾銅山記念館を見学しました。館内では、創業者の思いに始まり、銅山の開発、町の発展、公害の発生とその克服など、近代日本の産業発展に大きな足跡を残した足尾銅山の歴史を、時代の変遷に沿って学びました。

分科会スケジュール

1日目

- 12:30 東武日光駅集合
- 13:30 足尾銅山記念館見学
- 14:45 足尾に緑を育てる会の活動紹介
- 15:35 日光明峰高校生活動紹介
- 15:50 製錬所見学
- 16:30 足尾銅山文化交流館見学
- 17:00 足尾銅山観光ナイトツアー
- 19:00 分科会交流会

2日目

- 8:15 ホテル出発
- 9:00 まちあるきガイドツアー
JR日光駅～日光公民館
- 11:30 日光門前まちづくりの活動・
意見交換会
- 14:00 自由散策
- 17:00 全体交流会会場到着



足尾に緑を育てる会活動紹介

平成9年から、荒廃した足尾の山々の緑化活動を続けるNPO法人足尾に緑を育てる会から、体験植樹や春の植樹デー、環境学習の取組みなど、会の活動をご報告いただきました。

実際に植樹した山肌を見渡せる場所で説明を受け、会やこれまでの植樹活動参加者一人ひとりの力によって、緑が復活しつつあるのを実感することができました。



栃木県立日光明峰高校生活動紹介

地元の日光明峰高校では、「日光学」として、生徒が地域に入って地域に学ぶ地域課題解決学習を行っています。

そのプログラムの一つである「全国金銀銅サミットの実現」について、課題に取り組んだ生徒たちから、報告がありました。

金銀銅サミットは、地元には鉱山のある全国の小中高校の児童生徒の参加によるものですが、同校が主体的に活動し開催に至ったものです。

製錬所見学・足尾銅山文化交流館見学

足尾まるごと井戸端会議のガイドにより、かつて「日本一の鉱都」と呼ばれた足尾を支えた本山製錬所跡を見学しました。

その後、足尾銅山文化交流館に移動し、足尾の歴史と文化を展示する施設において、足尾銅山の世界遺産登録を推進する会から、活動状況を報告いただきました。



足尾銅山観光ナイトツアー

昭和48年の足尾銅山の閉山後、坑内観光施設として、辛く厳しい鉱石採掘の様子が時代ごとに再現されています。

当日は、足尾まるごと井戸端会議のガイドにより、通常より照明を落として、当時の薄暗い坑道の状況をよりリアルに体験しました。



まちあるきガイドツアー

2日目は、日光の玄関口・門前町地区で様々な”まちづくり”事業に取り組むNPO法人日光門前まちづくりによる、まちあるきガイドツアーを体験しました。

JR日光駅をスタートし、神橋まで、世界遺産・日光の社寺を支える門前町各所を巡りました。微かに残る痕跡や地形などを頼りに、ガイドと知られざる日光のまちあるきを楽しみました。



JR日光駅前



JR日光駅 貴賓室



東武日光駅前



松原町



石屋町本家体



稻荷町



御幸町



旧日光市役所



神橋前



意見交換会

まちあるきガイドツアーから昼食をはさみ、日光公民館において、「祭り(いのり)のまちをつくる”まちづくりの作法“とは？」と題し、日光門前地区の概要及びまちづくり活動が紹介されました。

参加者からは、まちあるきの感想とともに、参加者の地域での活動内容が発表されました。さらに、共通点、相違点、課題、悩みの共有など、これからのまちづくりに向けた有意義な意見交換会となりました。

参加者アンケート紹介

- どこの地区でもガイド不足、ガイドの高齢化は課題だなと感じました。
- 日光東照宮や華厳の滝など、いわゆる観光名所に訪れたことはあったが、町をじっくり歩きながら回ることがなかった。ガイドを聞きながら歴史や文化を学ぶことは、まちづくりの参考になるのだと改めて実感した。
- 足尾銅山についても、その歴史を深く学ぶ機会がなかったことから、実際に見て感じ、非常に良い時間を過ごすことができた。
- 地域づくりに関わる人たちとの交流で、それぞれの熱い想いに触れることができ、大変参考になりました。
- 地域づくりは人づくり、まさにその通りだと再認識しました。そして行政は責任を持ってその支援を行うべきで、官民協働の取り組みが求められています。

参加者内訳

参加者6名

- ◆長崎県3名 ◆埼玉県1名
- ◆長野県1名 ◆福岡県1名

分科会を振り返って

第6分科会では、『繁栄の「光と影」から掘り起こす、地域資源の活かし方』をテーマに、紅葉の中、足尾銅山と旧日光市エリアを歩きました。

参加者の皆さまからは、高齢化や共通の課題などについて、多くのご意見をいただきました。

私たちは世界遺産をはじめ豊かな地域資源に恵まれたところに暮らしていますが、地域として担う責任や課題も非常に大きいと感じています。今回は光と影という視点からご案内いただきましたが、今後も地域の魅力を掘り起こしながら、まちづくりを進めていきたいと考えています。

ぜひまた日光へお越しください。ありがとうございました。



「何もない!?!」から始まった 地域づくりのアレやコレ!!



分科会の概要

分科会のテーマは、「何もない!?!」から始まった 地域づくりの
アレやコレ!!」。都心へのアクセス性が良く、平坦な土地や穏やかな
気候のため暮らしやすい地域ですが、コレと言ったものが何も
ない地域だと言われることが多々あります。しかしながら、地域資
源を見直し、新たな魅力づくりが始まっています。

都市と田園の調和がとれた田園環境都市・小山市では、人と人、
都市と田園をつなげる官民連携プラットフォーム「PLAN
OYAMAプラットフォーム(POP)」がハブとなり、観光農園やバ
ルーン搭乗体験といった田園環境を活かしたアクティビティを体
験して頂きました。利便性のよい交通網と充実した医療環境をも
った暮らしにうってつけな下野市では、「一般社団法人 シモツケ
クリエイティブ」がリノベーションによって新たな魅力を生み出した
旧農家住宅や石蔵の今を紹介しました。



ジンの蒸留実演



吉田村VILLAGEの紹介

分科会スケジュール

1日目

- 13:00 JR小山駅東口集合
- 13:40 オリエンテーション
- 15:30 いちごの里でいちご摘み体験
- 16:40 須賀神社でご祈禱
- 18:30 分科会交流会(いちごの里)

2日目

- 6:30 ホテル出発
- 7:00 バルーン搭乗体験
- 9:30 西堀酒造 酒蔵見学
- 11:30 昼食(10picnic table)
- 13:30 吉田村VILLAGE 見学
- 14:30 道の駅しもつけ 見学
- 15:15 シェアスペースWEL 見学
- 17:00 全体交流会会場到着

オリエンテーション

都市部と田園部の境、市のシンボルである思川の河岸段丘近くに立地する小山市役所にて、初澤副市長からの挨拶で分科会がスタートしました。その後は参加者とまちづくり団体で輪になり、自己紹介のアイスブレイクを行いました。

また、POPから、小山市の市勢や中心市街地のエリアビジョン「PLAN OYAMA」とその推進組織「POP」目指していく方向性やこれまでの官民連携の取り組みをご紹介します。



いちご摘み体験

年間25万人以上が訪れる観光農園「いちごの里」について、小黒代表から取り組みの説明を市役所で受けた後、実際に現地でいちご摘み体験をさせていただきました。本来のいちご狩りの時期よりも早く、まだ数が少ないとのことでしたが、それでも十分にあり、味も甘酸っぱく大変おいしく頂きました。

参加者の中には、いちごのタルトを購入して召し上がる方もおり、栃木の名産であるいちごを堪能しました。また、訪問した翌日には和菓子テーマにした施設が建つとのことで、さらなる発展を感じました。



須賀神社 見学

夕焼けの中、明かりの灯された約100基の灯籠が並ぶ参道を歩きながら、須賀神社を訪問しました。須賀神社は、上杉討伐のため東北へ向かっていた徳川家康が、石田三成挙兵を受けて、関ヶ原へ向かう決断をした軍議「小山評定」の舞台であり、戦勝祈願をしたと言われる由緒ある神社。

沼部宮司から歴史や祭神にまつわるお話を伺い、旅の安全を願いご祈祷を頂きました。また、徳川家光の命で、日光東照宮を造営した職人に作られ須賀神社に納められた栃木県指定有形文化財「朱神輿（あかみこし）」を拝見させて頂くなど、大変貴重な体験ができました。



分科会交流会

いちごの里に戻り、分科会の交流会が行われました。

乾杯はいちごの里で作られたいちごビール、ビュッフェスタイルの料理の中にはいちごピザやいちごのサラダパスタ、ショートケーキなどいちご尽くしな他、小山の名産「小山和牛」のローストビーフやビーフカレーを堪能しました。お土産には、おやまブランドセレクト認定の品々の他、じゃんけん大会の勝者には「小山和牛」や「おとん豚」のギフト券が配られ、盛大なおもてなしとなりました。



バルーン搭乗体験

朝7時にホテルを出発し向かったのは、今年で32回目となる「おやまバルーンフェスタ」。バルーンへの搭乗体験の他に、競技フライトやPOPの副代表主催の地元の飲食店が出店するマルシェ、地元の農作物や加工品が集まる農業祭も行われていました。朝の澄んだ空気の中、身一つで地上10m以上までフライトする特別な体験ができました。



西堀酒造 見学

明治5年に創業した歴史ある日本酒酒蔵「西堀酒造」にて、酒蔵見学と日本酒の試飲をさせていただきました。西堀酒造は蒸留酒づくりにも取り組んでおり、今年度には県内初のジャパニーズウイスキーをリリースしました。また、銅製アランビック蒸留器を使った自分だけのオリジナルジンづくり体験も実施しており、その実演をして頂きました。



10picnic tables ランチ

下野市の天平の丘公園内にある古民家カフェ「10picnic tables」でお弁当を注文し、旧農家住宅をリノベーションしたシェアスペース「夜明け前」で食事しました。なかなか味わえない古民家でのゆったりした時間を過ごして頂きました。

また、シモツケクリエイティブの山口氏より、下野市での地域づくり事例や目指すビジョンなどを説明し、参加者の方々に魅力を知って頂きました。



吉田村VILLAGE 見学

吉田村VILLAGEは、土に触れ非日常感を味わえる複合施設空間。農泊をはじめ、バーカリーカフェやレストランでの食事、特産品のショッピングを楽しめます。

シモツケクリエイティブメンバーで吉田村VILLAGE村長の伊澤氏より、成り立ちやコンセプトの説明した後、建物内の見学や買い物を楽しんで頂きました。農園が広がる中でのグランピング施設の見学や、物珍しい石蔵でのショッピングに盛り上がっていました。



シェアスペースWEL 見学

地域に佇み、学校終わりには子どもたちが、夜には仕事終わりの社会人が、休日にはカフェを楽しむ方々が集まれる、シェアスペースとカフェと駄菓子屋が併設された空間。

実際に駄菓子屋を買いに来る子どもやカフェを楽しむ方の様子を見ていただき、空き家を活用した地域の居場所づくりを実感いただきました。





参加者アンケート紹介

- 近くの自治体で高い志で活動されている方、魅力的な活動に取り組まれている方を知り刺激となりました。
- 自分たちが何をしたいか、地域で何を求められているかが、バランスよく保たれ、結果的に誰かの居場所となるような拠点がいくつも繋がりあって作られていた印象を持ちました。
- 地域で活動されている方の年齢層が若いことや1人ずつで活動されているのではなくどんどん参加者が集まっているのが印象に残りました。
- 住人が地元を好きになるだろうと思う取組がたくさんで、素敵だと思いました。

参加者内訳

参加者17名

- ◆ 宮崎県5名 ◆ 和歌山県4名
- ◆ 東京都3名 ◆ 栃木県2名
- ◆ 長野県1名 ◆ 島根県1名
- ◆ 福岡県1名

分科会を振り返って

「何もない!？」から始まった 地域づくりのアレやコレ!!」をテーマに地域を見て頂きました。「何もないよね」と住民からよく言われがちですが、地域に求められているものを拾い上げ、新たな観光資源や住民の居場所を生み出した地域づくりの事例を知って頂けたかと思います。

参加者の方より、「官民連携で取り組んでいてよかった」「やりたいこと・求められていることのバランスが良い地域づくり」といったアンケートやお声がありました。我々自身も気づいていなかった地域づくりの良さを知れて、受入側、参加者側双方で気づき合い・学び合いができた分科会だったと思います。



人づくり×つながりづくり×地域づくり ～「まちつく」の取組から～



分科会の概要

人づくり×つながりづくり×地域づくり
～「まちつく」の取組から～

真岡市では2021年から、高校生や大学生、地域の大人たちがまちづくり社会実験に取り組む、真岡まちづくりプロジェクト「まちをつくらう」(通称、「まちつく」)によって地域の活性化が図られています。

この「まちつく」は、自分たちが住みたいまちをつくる、その取組として、もったいない公共空間の活用や、子どもたちに勉強を教える寺子屋など、多岐に渡る取組を行っています。

また、複合施設monacaによる新しい取組だけでなく、二宮尊徳が最初に赴任した場所でもある旧・二宮町の桜町陣屋の見学、そしていちご生産日本一の地域にあるいちご農園の見学をしていただきました。



真岡まちづくりプロジェクトの活動の様子

分科会スケジュール

1日目

- 13:00 JR宇都宮駅東口
- 13:30 monacaワークショップ
- 16:30 まちなか保健室
- 17:00 門前エリアまちあるき
- 17:30 分科会交流会

2日目

- 7:45 まちづくり拠点コレカラ
(お米食べくらべ)
- 8:50 いちご農家の見学
- 9:35 二宮尊徳資料館の見学
- 10:30 真岡珈琲寺内駅舎の見学
- 11:30 道の駅にのみや・昼食
- 13:30 大前神社見学
- 14:20 SLキューロク館見学
- 17:00 全体交流会会場到着

まちつくワークショップ

「まちつく」の事務局である林 大輔さんから、複合交流拠点施設monacaのテーマや機能などの紹介。

また、真岡まちづくりプロジェクトの取組内容やその中で大切にしていることをお話いただきました。



monacaの見学

複合交流拠点施設monacaのスタッフである久保田 有紀さんと渡辺 真子さんにmonacaの案内をしていただきました。

monacaは、図書館、子育て支援センター、屋内型子ども広場、地域交流センターが複合している施設です。



まちなか保健室の見学

まちなか保健室田町館の室長、渡辺 美恵子さんに取組についてお話いただきました。

まちなか保健室は、誰でも健康・介護・子育てなどの相談ができる場所で「心の健康事業」と題していろいろな自主企画をやっています。



門前エリアのまち歩き

門前エリアの現在は、昔ながらの建屋を活用した個性的なお店が集まっている場所です。

古くはお寺の門前町として栄え、さらに大正～昭和には、料亭や芸者置屋が並ぶ花街としてにぎわいました。その名残が今も残っている場所を見学しました。



交流会(あらかと)

おいしい料理と、真岡市の地酒、(株)辻善兵衛商店の桜川を楽しみました。



コレカラ×朝ごはん

(株)阿部商店の阿部さんから、益子焼きの釜を提供いただき、その釜を使って、真岡市の農家さんが作ったお米の食べ比べをしました。

朝食をいただきながら、monacaの渡辺真子さんに、まちづくり拠点コレカラでのまちつくの活動についてお話いただきました。



いちご農家の見学

広大な農地でいちごを生産する、猪野 正子さんと猪野 麻美さんに、いちごの生産やいちごを通じたの地域づくり活動についてお話いただきました。

二宮尊徳資料館の見学

二宮尊徳資料館スタッフの方に、資料館の案内と旧・二宮町陣屋の案内をしていただきました。

二宮尊徳(通称:二宮金次郎)が小田原藩から桜町の復興の命を受け、1823年に桜町へ赴任した場所です。



大前神社の見学

大前神社の禰宜を務める柳田 耕史さんに、1500年以上前から鎮座する大前神社を案内していただきました。

SLキューロク館×Nurcの見学

SLの形をした、SLキューロク館ではSLが動くところを見学しました。

真岡駅前にあるガレージブランドNurcの代表の井上 真さんに、Nurcのアトリエ・店舗とカフェ「ZUKKOKE COFFEE」、登山用品を扱うお店が一体したお店「NRUC NEST」をご紹介いただきました。





参加者アンケート紹介

- スーパーマンがいるからできるまちづくりではなく、だれでもできる範囲でのまちづくりを！
- 一足飛びには、行かないけども、1人の100歩よりも、100人の1歩を心においていきたいと思います。
- 地域の住民が地域のことを自分事として捉える仕掛けや仕組み、風土が出来上がりつつある点が素晴らしいと感じました。
- 建物や場所、お店、食事それぞれに魅力が詰まった場所でしたが、なによりもそこで活動、活躍されている人たちが楽しそうにお話しされているのを聞くことで、愛が伝わってきて、初めて来た私たちも真岡に愛着が湧きました。自分達がまず楽しく活動することが、人を呼ぶんだと学びました。
- ご準備いただいた朝ごはん、本当においしかったです！段取り等大変だったことと思います。ありがとうございました！

参加者内訳

参加者11名

- ◆ 島根県2名 ◆ 北海道1名
- ◆ 青森県1名 ◆ 岩手県1名
- ◆ 茨城県1名 ◆ 東京都1名
- ◆ 長野県1名 ◆ 和歌山県1名
- ◆ 兵庫県1名 ◆ 宮崎県1名

分科会を振り返って

第8分科会のテーマにある、「人づくり×つながりづくり×地域づくり」について、関係している人、モノ、場所を巡っていただいて、「まちつく」について触れていただきました。

いただいた感想を拝見すると、「まちつく」を感じていただけただよう見え、良かったと思います。



オリエンテーション

元地域おこし協力隊の石井さんがオープンしたCafé Asをお借りして、オリエンテーションを行いました。

アクティブシニアの頭文字をとったこの場所は、シニア世代の憩いの場となっており、参加者はその雰囲気も楽しみました。

最初は緊張していた参加者も徐々に打ち解けていました。



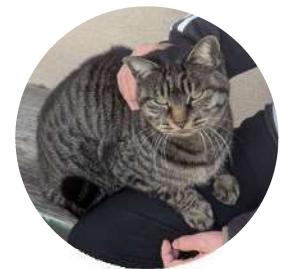
(一社)えんがおセミナー

(一社)えんがおの施設見学の前に取組内容の紹介動画を視聴しました。ICC KYOTO 2025で3位に入賞した、濱野代表理事のプレゼンも視聴しました。

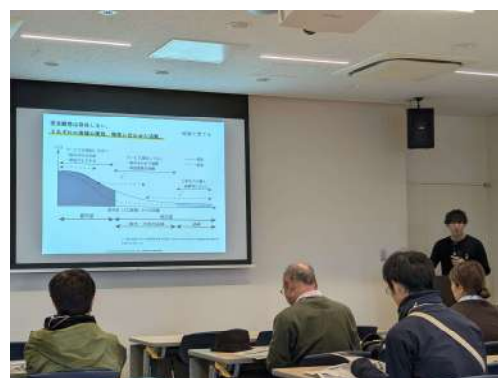
中心市街地まちあるき

(一社)えんがおの概要を聞いた参加者は、実際に「ごちゃまぜの地域づくり」が行われている現場を、自分達の足で歩いて見学を行いました。

地域サロン、地域食堂、シェアハウス、グループホーム、フリースクール、学童保育などの事業が中心市街地で行われており、徒歩圏内にすべての施設が存在するのが肝と濱野代表は語っていました。まちあるき後は、濱野代表から団体を立ち上げた経緯など、地域づくりにかける、その熱い想いを聞くことが出来ました。



地域サロン
「みんなの家」
に出入りする猫



那須野ヶ原バルビュホテルで交流会

分科会交流会では、大田原市の3つ蔵自慢のお酒をふるまいました。乾杯酒は、天鷹酒造(株)の「有機純米天鷹」でした。



なす風土記の丘湯津上資料館 下侍塚古墳

那須国古代ロマンプロジェクトの活動紹介として、なす風土記の丘湯津上資料館と日本一美しいと称された下侍塚古墳を見学しました。この地に古墳があり、水戸光圀公が発掘調査を命じた、その理由について探求しました。



古墳の保護のために植えられた松の木



黒羽観光やなで昼食

昼食は黒羽観光やなで「鮎釜めしセット」を食べました。大田原市内を流れる清流那珂川は鮎の漁獲量日本一ともいわれています。秋にしか味わえない「落ち鮎」を堪能しました。



串打ちの技術が光る塩焼き



黒羽芭蕉の館・大雄寺

俳聖松尾芭蕉が「おくのほそ道」で最長滞在した黒羽地区その地に残る史跡について案内しました。2026年前期放映予定のNHK連続テレビ小説「風、薫る」のモチーフとなった大関和もご紹介しました。





参加者アンケート紹介

- えんがおの方たちの活動は大変参考になりました！（自分たちの地域でできるか否かは置いておいてですが。）
- 大田原市の地域文化の多様性とお宝の数々。それを大切にしておられる方々の思いを知ることができました。侍塚、那須国造碑、光丸山、黒羽城址、大雄寺、大関和のお話、鮎飯など、この地域資源をどう活かしまちづくりを展開していくか、分科会の経験を活かして次なる展開を楽しみにしています。
- 夜の懇親会では、関係者・市職員・参加者の席の配置など、もう少し工夫があれば、さらに会話が広がり楽しい時間になったと思います。

参加者内訳

参加者10名

- ◆宮崎県3名 ◆福島県1名
- ◆埼玉県1名 ◆長野県1名
- ◆和歌山県1名 ◆兵庫県1名
- ◆福岡県1名 ◆長崎県1名

分科会を振り返って

第9分科会では、(一社)えんがおの「こどく」と「こりつ」を解消するための取組についてご紹介しました。参加者からは「自然と人が集まる居場所を実現できている、この現状が信じられない」などの言葉を頂き、あらためて素晴らしい取組であることを実感しました。那須国古代ロマンプロジェクトの活動紹介では、湯津上地区に眠る地域資源について、その魅力の語り手の活動を紹介しました。語り手が高齢化し、次世代の担い手の育成などの課題があるなかで、自分達の地域資源を再認識することが出来ました。



濱野代表こだわりの「えんがお坂」



矢板市が挑む！ 資源再活用のこれからの新しい地域づくり



分科会の概要

矢板市では企業跡地や廃校、ゴルフ場跡地などの地域資源の利活用が進んでいます。本分科会では、それらの施設を実際に見学しながら学ぶプログラムをご用意しました。

1日目には、書店を利活用した場所で地域おこし協力隊が運営している「矢板ふるさと支援センターTAKIBI」やワーケーション施設「スローワーク矢板」、また街の中心にある元野球場を再利用した長峰公園を見学し、廃校利活用の施設にて地域プレイヤーとの交流会を実施しました。

2日目には、ゴルフ場の再活用事例として「58口ハスクラブ」、大手電機メーカーの工場を再活用している「デカーレ矢板」を見学しました。

資源再活用のこれからの新しい地域づくりに取り組む各施設を見学・体験した分科会となりました。

分科会スケジュール

1日目

- 13:00 JR矢板駅集合
- 13:10 自己紹介・ワークショップ
矢板ふるさと支援センター「TAKIBI」の紹介
スローワーク矢板施設見学
- 15:10 長峰公園見学
- 16:30 ミツモチ小学校紹介
分科会交流会

2日目

- 9:00 宿泊施設出発
- 9:15 道の駅やいた見学
- 10:30 58口ハスクラブ見学・昼食
- 13:30 デカーレ矢板見学
- 16:00 YAD(高校生団体)紹介
- 17:30 全体交流会会場到着



自己紹介とワークショップ



ミツモチ小学校の見学

自己紹介・ワークショップ

参加者同士は初対面でそれぞれお仕事や居住地も異なるので、はじめに自己紹介と今回の分科会にて学びたいことのワークショップを実施致しました。

さまざまなご意見があり、それに沿った分科会運営を実施致しました。



矢板ふるさと支援センター TAKIBIの紹介

福田麗センター長から施設の説明を行いました。立ち上げから5年。書店を再活用したTAKIBIは月間400名以上が利用しています。学生だけではなく、まちで新しく挑戦したい方の集う場所、そしてそれを応援する人が集う場所です。

スロークワーク矢板施設見学

施設のオーナーである荒井代表よりスロークワーク矢板を案内。地域共創型のシェアオフィスを目指して、矢板ならではの魅力的な働き方(SLOW WORK)を提供する施設です。また都内のデザイナーと矢板のりんご園のコラボ等、新しい価値創造も行っています。



長峰公園見学

分科会代表の手塚より、日本の都市公園100選にも選ばれた長峰公園をご案内。

競輪場→少年野球場→現在の公園となった遍歴があり、各所にその面影が残っている公園です。約5000本のツツジや夏祭りなどで大きく賑わう矢板の街の中心の公園となっています。



ミツモチ小学校紹介

宿泊していただいたミツモチ小学校(旧長井小学校)を分科会代表の手塚よりご案内。

平成元年に建てられ、廃校になって約20年。いまはキャンプやスポーツ合宿、教室宿泊などさまざまな方が矢板を知るキッカケになる施設になっています。



道の駅やいた

年間160万人超も訪れる道の駅「やいた」では、地元産のリンゴや朝採り新鮮野菜、100%のリンゴジュースなどの加工品、矢板ブランドに認証された矢板特産品が堪能できます。



58口ハスクラブ見学

ゴルフ場跡地を活用した58口ハスクラブのオーナーである小森社長にガイドして頂きました。農業を軸に様々なアクティビティや、食の体験を提供しております。

ソーラー発電等の再生可能エネルギーの取り組みやペット共生のペットツーリズムを推進している施設です。



58口ハスクラブにて昼食

小森社長のガイドにより、オーガニック野菜栽培の現場やいちご園を案内させて頂きました。地元産のお肉や58口ハスファームで大切に育てられた新鮮な無農薬イタリア野菜や果物を活かしたビュッフェをご堪能いただきました。



デカーレ矢板見学

大手電機メーカー工場跡地を活用したデカーレ矢板のオーナーである東泉社長にガイドして頂きました。間伐材業界で日本有数の企業のトーセンの工場として稼働しており、木材を隅から隅まですべて活用しています。70歳を超えても挑戦し続ける社長の姿を見ることができました。



YAD(高校生団体)紹介

矢板市の有志学生で構成される高校生団体Yaita All Directions (通称YAD)の活動についてご案内しました。3学年合わせ60名が集う団体で、1,000人規模のイベントを毎年運営、ほぼ自費で開催しています。なぜ地域活動をしているのか？ 学生と参加者で交流できた場になりました。





参加者アンケート紹介

- 大手電機メーカーの撤退・縮小のなかで地域の再生に頑張る若者や経営者、高校生のチャレンジに感動しました。
- 地域活性化には世代や業界を超えた交流が重要だと感じました。
- 矢板地域で活躍される若い世代の熱量の大きさに感動し、自分も初心にかえって頑張ろうと、志を新たにできました。
- 本研修で様々なプレイヤー、経営者、高校生とお会いすることができ、地域活性の鍵はやはり「人」と感じました。

参加者内訳

参加者 9名

- ◆宮崎県2名 ◆青森県1名
- ◆茨城県1名 ◆東京都1名
- ◆長野県1名 ◆福岡県1名
- ◆長崎県1名 ◆宮崎県1名

分科会を振り返って

「資源再活用」をテーマに、廃校や工場跡地などを巡った本分科会。視察を通じ、そこで挑戦を続ける「人」の存在こそが地域活性化の本質であると改めて実感する2日間となりました。

また夜は地元の若手プレイヤーを交えて交流会を実施。地元の次世代を担う若手地域プレイヤーたちが集い、参加者の皆様と焚き火を囲んで語り合いました。宮崎県の竹を使った「闊歩酒(かっぽざけ)」を作るなど、炎とお酒を囲んで地域の垣根を超えた本音の交流が生まれました。この熱気ある時間は、来訪された皆様だけでなく、地元の若手プレイヤーにとっても大変な刺激となりました。外からの視点と地元的情熱が交わり、双方にとって明日への活力となる、実り多き分科会となりました。

参加して下さった皆様、本当にありがとうございました。



扇状地に広がる自然とコミュニティで 沸き起こるアートなまち



分科会の概要

参加者の皆様には、雄大な自然と歴史が織りなす那須塩原の魅力を楽しみながら、本市のパーパス“好きを、編む。”が体現された様々なまちづくりを実感していただきました。

1日目は、“那須塩原市の顔”那須塩原市図書館みるるを会場に、「那須塩原市ART369プロジェクト」が行う“アートを活かしたまちづくり”について紹介し、その後、細山田デザイン事務所を訪れ、活版印刷を体験しました。SHOZO caféを中心とした、こだわりのあふれる黒磯エリアを散策した後、道の駅「明治の森・黒磯」・旧青木家那須別邸にて、明治の歴史を感じながら交流を深めました。

2日目は、現代アートを取り入れたユニークな温泉宿として知られる、板室温泉 大黒屋から始まり、千本松牧場で自然とグルメを満喫。その後は塩原エリアへ移動し、もみじ狩りや塩原の歴史を学ぶ機会となりました。

分科会スケジュール

1日目

- 13:00 JR黒磯駅集合
- 13:10 那須塩原市図書館みるる
見学/活動紹介
- 14:00 細山田デザイン事務所
活版印刷ワークショップ
- 15:15 SHOZO通り散策
- 16:00 道の駅「明治の森・黒磯」
旧青木家那須邸別邸
- 18:00 分科会交流会

2日目

- 8:10 ホテル出発
- 9:00 板室温泉大黒屋/菅木志雄倉庫
美術館 見学
- 10:40 千本松牧場 見学/昼食
- 13:10 塩原まちめぐり
- 17:30 全体交流会会場到着



塩原まちめぐりの様子



活版印刷ワークショップの様子

那須塩原市図書館みるる 見学/活動紹介

分科会のスタートは、那須塩原市のアート拠点である「図書館みるる」を会場にしました。

ART369プロジェクトが推進する“アートを活かしたまちづくり”の活動を紹介しました。また、2名の大学生サポーターも登壇し、本分科会で注目してほしい見どころをプレゼンテーションしました。



細山田デザイン事務所 活版印刷ワークショップ

図書館みるるから徒歩5分ほどにある「細山田デザイン事務所」へ移動し、活版印刷のワークショップを行いました。参加者の皆様は、店内に並ぶ印刷物や活版器具に魅了されている様子でした。

ワークショップでは、活版印刷ならではの温かみを感じられる、オリジナリティあふれる作品を制作しました。



SHOZO通り散策

黒磯駅から徒歩15分圏内の「SHOZO通り」は、ART369プロジェクトの拠点である県道369号線沿いに位置します。こだわりの個人店や趣のある街並みを体感してもらうため、自由散策の時間を設けました。

参加者の皆様は気になるお店を訪れるなど、思い思いにエリアの雰囲気を楽しんでいました。



道の駅「明治の森・黒磯」 旧青木家那須邸別邸

県道369号線をバスで北上し、令和6年にリニューアルした道の駅「明治の森・黒磯」へ。ここは全国第2位の生乳生産量を誇る乳製品が魅力なだけでなく、デザイナーが手掛けた洗練された空間も見どころです。

参加者の皆様は、新しくなった内装やパッケージなどの空間づくりに注目しながら、買い物を楽しみました。

分科会交流会

1日目の締めくくりは、名物「梅干しの天ぷら」が味わえる「天ぷら割烹しきの」にて交流会を開催しました。

地元の料理や地酒を囲みながら、多才で個性豊かな参加者の皆様にそれぞれの活動を紹介いただきました。業種の垣根を越えて対話が弾み、参加者同士の親睦を深める貴重なひとときとなりました。



板室温泉大黒屋

2日目のスタートは、現代アートを取り入れた旅館経営の先駆けである「板室温泉 大黒屋」を訪問しました。室井会長の案内で敷地内を見学しながら、アートを活かした空間づくりや、細部にまで行き届いたおもてなしの姿勢についてお話を伺いました。

参加者の多くはその深い理念に圧倒された面持ちで、熱心に耳を傾けている姿が印象的でした。



菅木志雄 倉庫美術館 見学

室井会長が40年来の親交を持ち、支え続けてきた「もの派」の作家、菅木志雄氏の作品約300点を収蔵する「倉庫美術館」を案内いただきました。

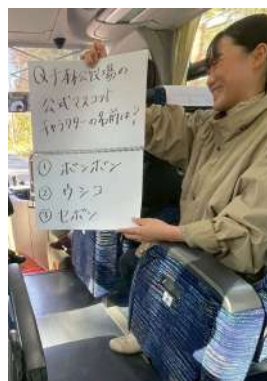
アートスタイル経営が体現された空間には、室井会長の信念と作家の願いが凝縮されており、その深い想いに触れる貴重な時間となりました。



千本松牧場 見学

ツーリズム推進担当の地域おこし協力隊のガイドとともに、令和6年に新たなコンセプトでグランドオープンした国内最大級の「千本松牧場」を訪れました。

「自然との共生」をテーマに掲げた循環型酪農の取り組みに触れ、那須塩原の豊かな自然を五感で体感していただく機会となりました。



昼食

ランチは、千本松牧場のグランドオープンに合わせて新設されたレストランでいただきました。

名物のジンギスカンや新メニューの「ちぎりハンバーグ」など、参加者の皆様にはそれぞれお好みのメニューを選んでいただき、和やかな食事のひとときを過ごしました。

塩原まちめぐり

最後は、那須塩原の観光名所である塩原温泉郷を散策。ボランティア団体「塩原温泉まちめぐり案内人」のガイドのもと、約2時間をかけてじっくりと街を歩き、普段はなかなか知ることのできない地域の魅力を堪能しました。

また、参加者に多い九州ではなかなか目にするることのできない鮮やかな紅葉も、あわせて楽しんでいただけた時間となりました。





参加者アンケート紹介

- とても楽しい分科会でした！見どころたくさん、美味しいものたくさん。人との出会いもたくさん用意していただきました。ありがとうございました！
- 今回は、アートという切り口での地域づくりでしたが、そのほかの切り口での地域づくりにも生かせるような分科会でした。また、若い人たちのパワーと熱量を強く感じました。
- アートを通して人と人を繋ぐまちづくりがとても良いなと思いました。
- 場面が変わるごとに、気づきや閃きを感じることができました。ありがとうございます。

参加者内訳

参加者12名

- ◆宮崎県6名 ◆長崎県2名
- ◆沖縄県2名 ◆東京都1名
- ◆福岡県1名



分科会を振り返って

市のパーパス(※)「好きを、編む。」がアートを通じて体現される現場を巡る中で、参加者の皆様が自身の活動と照らし合わせ、熱心に意見を交わす姿が印象的でした。

参加者一人ひとりの視点を通じ、本市のアート資源が持つ新たな魅力を再発見できたことは、事務局としても大きな収穫です。那須塩原の豊かな可能性を改めて確信できた、実りある2日間となりました。

※今後の市政運営や各種アクションの最上位概念に位置付け、全ての動きの目的となるものです。



里山の恵みを活かしたまちづくり 「しあわせの自給自足」



分科会の概要

今回のテーマ：里山の恵みを活かしたまちづくり「しあわせの、自給自足。」

耕作放棄地の解消や6次産業化の推進、地域内での雇用確保を果たした「そばの里まぎの」や県内第一号の道の駅に指定された「道の駅もてぎ」、2輪車の世界大会をはじめ各種レースが開催される「モビリティリゾートもてぎ」、町産の木材をふんだん使用し建設した「ふみの森もてぎ」、町独自のリサイクルシステムを構築した「美土里館」をご紹介しました。2日目には、参加者同士和やかな雰囲気の中でそば打ち体験を楽しんでいただくこともできました。

2日間を通して、茂木町の里山の恵みと人の温かさを感じていただくことができたと思います。



鎌倉山から牧野地区を望む



モビリティリゾートもてぎコース見学

分科会スケジュール

1日目

- 12:30 JR宇都宮駅東口集合
- 13:45 そばの里まぎの取組紹介
- 15:10 美土里館見学
- 16:10 ふみの森もてぎ見学
- 17:30 分科会交流会
(モビリティリゾートもてぎ)

2日目

- 8:30 ホテル出発
- 8:40 モビリティリゾートもてぎ見学
- 10:30 そば打ち体験・昼食
- 13:00 道の駅もてぎ見学
- 17:00 全体交流会会場到着

そばの里まぎの取組紹介

農事組合法人そばの里まぎの 石川修子代表が取組の紹介をしました。

牧野地区では、地域内の耕作放棄地を蘇らせるため、地域住民が「そば」を活用したむらづくり事業に取り組みました。そばのオーナー制度や栽培、レストランの運営、6次産業化など、多岐にわたる取組を紹介することができました。

そばを使用したシフォンケーキとかりんとうを食べながら、和やかな雰囲気の中で実施できました。



美土里館見学

茂木町有機物リサイクルセンター「美土里館」を見学しました。牛糞や生ごみ、落ち葉、もみ殻、間伐材を使用した「美土里たい肥」を製造、販売しています。農家や各家庭で不用になったものを集め、たい肥の原料としています。

作られたたい肥は農家が購入し米や野菜づくりに利用されます。栽培された野菜などは道の駅もてぎ等で販売され、各家庭に届けられます。家庭から出た生ごみは美土里館でたい肥の原料となります。これが、町独自のリサイクルシステムです。

ふみの森もてぎ見学

茂木町まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」を見学しました。中心市街地活性化の拠点として町産の木材で建てられた図書館をはじめとする複合文化交流施設です。町有林から切り出したスギやヒノキをふんだんに使用しています。図書館やギャラリー、歴史展示室など町内外の多くの方が利用しています。



分科会交流会

交流会は、宿泊場所であるモビリティリゾートもてぎホテルで開催しました。茂木産の野菜やコメを使用した料理と牧野地区のそばを使用して作られた「そば焼酎まぎの」を召し上がっていただきました。「そば焼酎」「そばかりんとう」「そばシフォンケーキ」を景品に参加者全員でじゃんけん大会を行いました。景品は、お土産として、お持ち帰りいただきました。



モビリティリゾートもてぎ見学

モビリティリゾートもてぎでは、コースやVIP観覧席等、普段入場できない施設を見学させていただきました。

コースのバンクでは、停車しているバスの傾きに参加者も驚きの声をあげていました。場内には、里山の自然を保護しながら自然学習の場としている「ハローウッズ」があり、町と連携しながら自然保護にも取り組んでいます。年間を通して、県内外から多くの方が訪れます。



そば打ち体験・昼食

3班に分かれ、そば打ち体験をしました。「そばの里まぎの」のそば打ち名人のデモンストラーションの後、いよいよそば打ちに挑戦となりました。

自分で打ったそばが昼食となるため、参加者のみなさんは真剣な表情で取り組んでいました。名人の手ほどきを受けながら、各班、美味しいようなそばが出来上がりました。

地元の鮎や野菜を使用した天ぷらと一緒に自分で打ったそばで昼食となりました。



道の駅もてぎ見学

いよいよ最後の見学は、道の駅もてぎです。

栃木県内第1号の道の駅に指定されました。道-1グランプリ殿堂入りを果たした「ゆず塩ラーメン」や「米粉バウムクーヘン」、地元産ゆずを使用した加工品など、6次産業化の取組のお話を聞きました。年間151万人の方が訪れる茂木町を代表する観光施設でもあります。





参加者アンケート紹介

- 牧野地区の方々の取組に感銘を受けました。自らが地域内に働く場を作り出し、活動されている姿、生き生きとしているなど感じました。
- 「そばの里まぎの」の6次産業化の取組や「美土里館」での町独自のリサイクルシステムの構築など「しあわせの、自給自足。」を感じることができました。
- 地域の方の「熱い思い」が地域活性化の一番大切な要素だと感じました。2日間楽しく過ごすことができました。ありがとうございました。
- 地域の団結力、行動力、継続していく力はすごいと感じました。とても素敵な地域でした。
- 「しあわせの、自給自足。」生活に興味を持ち、参加しました。様々な取り組み、素晴らしかったです。茂木町に来てよかったです。

参加者内訳

参加者9名

- ◆栃木県4名 ◆群馬県1名
- ◆東京都1名 ◆岡山県1名
- ◆高知県1名 ◆福岡県1名



分科会を振り返って

第12分科会では、そばの里まぎの取組を中心に茂木町の取組も紹介させていただきました。

過疎化が進む茂木町で、知恵を絞りながら、あの手この手で地域の元気を作り出そうとしています。そうした取り組みは、町だけでなく、地域や町民の協力が不可欠です。そばの里まぎの「そばで地域を活性化する！」という強い思いが、いままでの継続の原動力になっていると思います。

ご参加いただいた皆さまに、豊かな自然と穏やかな町民の笑顔あふれる茂木町の「しあわせの、自給自足。」をご紹介できて良かったです。茂木町にまた、おいでください。



世界でただ一つの陶芸にチャレンジ・農家民泊、 棚田オーナークラブで地域づくり



分科会の概要

小砂village協議会は、2013年10月に栃木県で唯一、NPO法人「日本で最も美しい村」連合に加盟したことを契機に設立。里山の美しい景観を生かした地域づくりを行っています。

特に、「小砂棚田オーナークラブ」「農業体験を通じた農家民泊」、地元のお母さんたちが地元産食材を活用した「お母ちゃんCafé」、首都圏の美大生が中心となって里山を美術館に見立てて制作活動を行っている「小砂環境芸術祭」(KEAT)などが特筆すべき事業内容です。

また、小砂焼は、江戸時代から続く(170年)伝統ある焼物で金結晶の色彩が特徴の陶器です。参加者の皆さんには、ロクロによる世界でただ一つの陶器制作にチャレンジしていただきました。

那珂川町に来て「こでらんねえ！」体験をしていかがでしたか。



分科会スケジュール

1日目

- 12:45 JR宇都宮駅東口集合
- 14:00 小砂village協議会活動紹介
- 15:00 小砂里山芸術の森見学
- 16:00 小砂焼体験
- 18:00 分科会交流会(元湯東家)

2日目

- 8:15 ホテル出発
- 8:45 ホテル「飯塚邸」見学
- 10:40 バイオマス発電所見学
- 11:50 昼食(御前岩物産センター)
- 13:20 マンゴーなど栽培見学
- 14:00 道の駅ばとう見学
- 16:00 全体交流会会場到着

小砂里山芸術の森見学

笹沼享一小砂village協議会長の案内により首都圏の武蔵野美術大学、多摩美術大学、東京芸術大生等による間伐材を活用し制作した彫刻の森を見学しました。



小砂焼陶芸体験

藤田製陶所の藤田眞一社長、藤田悠平体験センター館長の指導のもと、参加者全員がロクロによる陶芸体験を行い、湯飲みやごはん茶碗等思い思いに製作していました。

来年の干支である「午」の置物を製陶所からサプライズプレゼントされました。

元湯「東家」で交流会

宿泊先の元湯「東家」で11月6日に那珂川町の町長に就任したばかりの益子純恵町長、笹沼享一会長の歓迎のあいさつの後、藤田眞一社長の音頭で乾杯を行い地元関係者との交流会、夜なべ談義を夜遅くまで行いました。

地元産のイノシシ肉や休耕田で養殖したホンモロコ、地元産の手作りハム等の食材を使った料理が提供されました。



ホテル「飯塚邸」の見学

河西美津子チーフマネージャーの案内により国の登録文化財(豪商町屋)をリノベーションしたホテルの内部を見学しました。

本宅、新宅AB、文庫蔵、蔵の施設は、それぞれ違った内容の部屋の造りでプライバシーの図られる施設でした。

その後、街中を散策して改修工事中の馬頭広重美術館を概観から見学しました。



バイオマス発電所の見学

那珂川工場の宮川俊哉室長の案内で、旧馬頭東中学校を活用した製材工場と、製材過程で発生する端材等をチップ化して利用するバイオマス発電設備の内部を見学しました。参加者の方からは、SDGsの理念に適合した取組みであるとの感想が寄せられ、関心の高さが伺えました。



御前岩物産センターで昼食

藤田悦男実行委員長の案内により、奇岩の御前岩を見学しました。良縁に恵まれたり、子宝安産の神様という言い伝えがあります。

昼食は、ゆり板そば御膳を堪能しました。この地域は、かつて「金」が産出しておりまして奈良の大仏に金を寄進したそうです。近くの川では、今でも「ゆり板」を使って砂金取りの体験ができます。



マンゴーなどの栽培施設見学

岡康専務理事の案内で温熱を利用したマンゴーなどの栽培施設を見学しました。マンゴーは「なかよしマンゴー」のブランドで予約販売しています。

その他にも常夏のフルーツが栽培されており、関東の北とは思えない光景に驚かれた方もいるのではないのでしょうか。

道の駅「ばとう」で買い物

最後に立ち寄ったのは、日光・那須連山を一望できる道の駅「ばとう」。地元那珂川町産の農産物やお土産、手作りジェラート等を取り揃えており、旅の余韻を感じながら、お買い物を楽しんでいただけただのではないかと思います。





参加者アンケート紹介

- 観光地として、地域の方々がとても暖かく、現在の観光に必要な繋がりを強く感じました。
- スタッフの皆様方の細やかなお心遣い、有難うございました。旧中学校跡での木質バイオマス設備が良かったです。山の産物が放置されることなく、エネルギーに変わり循環していく様子が見えました。
- 小砂焼や有形文化財の活用等伝統を古くから守り続けていることに感動した。
- 道沿いの畑や田、空き地の草刈りが行き届いており、地元の方の継続的な努力を感じられたとともに、とても美しい場所だと思った。

参加者内訳

参加者10名

- ◆兵庫県3名 ◆宮崎県2名
- ◆福島県1名 ◆埼玉県1名
- ◆東京都1名 ◆長野県1名
- ◆和歌山県1名

分科会を振り返って

第13分科会では、棚田オーナークラブや農家民泊の活動内容を中心に説明をしました。都市と農村の交流活動が12年間も継続していることに参加者の皆さんは驚かれていました。

分科会の開催を通して得られた経験と豊富な地域資源を活用し、これからも参加者が楽しみながら長く続けられる地域づくりを目指して進んでいきます。

「ろくろ体験」の作品が令和8年1月には参加者の皆さんに届いたことと思います。小砂の思い出として末永く愛用してください。



全体交流会 フォトギャラリー



ジャズ生演奏



カクテルフレアショー



魅力発信サポーター紹介



八木節の演舞





MENU

栃木県ご当地グルメプラン

第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会 様

日光巻湯波田楽と鯉の地野菜串

プレミアムヤシオマスの
スモークマリネカルパッチョ
～人參ラベ添え～

地野菜のパーニャカウダ

大谷熟成生ハムとチーズのブルスケッタ

佐野市ソウルフード
黒からあげと地野菜のピンチョス

とちぎゆめボークのピンチョス

栃木軍鶏の柚子味噌焼き

とちぎ和牛と霧降高原牛のローストビーフ二種

佐野市名物 耳うどん

県産とちぎの星使用
カップde彩りちらし
と
稲荷の千瓢巻き

パティスリーフラグスの
スイーツ盛り合わせ

フルーツ盛り合わせ



屋台(佐野らーめん・いもフライ・宇都宮餃子・かぬまシウマイ)



第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会 実行委員会副委員長 林 大輔

栃木大会の副実行委員長をしております、真岡市の林と申します。皆さんは、今日栃木県に初めて来られた方がほとんどかと思います。

私も兵庫県出身ですが、栃木に来る時、栃木県がどこにあるかも分かりませんでした。



しかし、今はすごく栃木県のことが好きです。ちなみに聞きますけど、昨日今日で栃木県や真岡市のことが好きになった方、手を挙げていただいてもいいですか？ 地域づくりには、すごく課題が沢山あったり、悩みがあったりということを昨日今日で共有されたと思います。その解決であったり、ヒントになるものをそれぞれの分科会で学んだと思いますが、結局その中で私が思うことを1つお話しさせていただくと、自分の地域のことが好きになるかどうかが一番大事だと思うんです。

来年の長野県の方は、私以上に長野県のことを好きなので、私を楽しませてくれる長野県大会をやっただけだと思いますし、再来年の福岡県の方は、もっともっと長野県以上に福岡県が好きなのをアピールしてくれると思います。そんな大会になるといいなと思ってますし、明日の全体会でそれぞれの分科会を知っていただければと思います。



全体会 開会あいさつ

第41回地域づくり団体全国研修交流会栃木大会 実行委員会委員長 手塚 将之

皆さんこんにちは。栃木県大会実行委員長の手塚将之と申します。皆様、本当にお疲れ様でした。本日はついに最終日となりました。

昨日まで、各分科会でそれぞれの栃木県を体験していただけたと思っております。

今回初めて栃木県に来られた方はいらっしゃいますか？結構いらっしゃるかと思いますが栃木県はどうでしたか？

栃木県の色々な側面が見えたと思いますが、テーマにあります「こでらんねえ栃木県」=耐えられないほど良いという栃木を体感していただけたかなと考えております。昨日の全体交流会に関しましても、大いに栃木の垣根を超えた交流ができたと考えております。

本日の全体会は、各分科会からの発表と次回大会開催の長野県の皆様に発表いただくプログラムとなっております。各分科会からの発表で、各分科会の様々な事例を体感していただけたらと思っております。

分科会に参加出来なかった方にとっても、様々な地域の事例を今回「学ぶ場」になるよう、本日の全体会が全国大会の集大成として取り組んで参りました。各分科会の内容を感じ取っていただき、ご自身の地域に持ち帰り、何かしら小さくても良いので実践につながる”種”として持ち帰っていただければと考えております。

また、会の終盤に次回開催地である長野大会のPRタイムがございますので、私たちも期待してとても楽しみにしております。

本日、長丁場になりますが、様々なご意見や気づきを含めて学びの多い時間になればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



全体会 歓迎あいさつ

栃木県副知事 赤岩 弘智

栃木県を代表いたしまして、この全体会に出席いただいている皆様を心より歓迎申し上げます。そして何よりこの地域づくり団体全国協議会の皆様、そして今回の大会を主催してくださっている栃木県実行委員会の皆様に深く感謝申し上げます。

さらに、この全国大会は総務省、地域活性化センター、栃木県市町村振興協会の皆様に後援をいただき成り立っているものでございます。後援いただいた皆様にも重ねて御礼申し上げます。

本日の全体会では、先ほど手塚さんから話がありましたとおり、分科会での活動状況を皆様からご報告いただき、その内容を共有することがメインとなっております。皆様それぞれ分科会活動の中で、新たな気づきや出会いがあったことと思います。

ぜひ、そうした学びや経験をこの全体会の中で共有していただき、全国大会が終わり地元に戻られた後も、地域づくりの活動に活かしていただければ、栃木県としてこれに勝る喜びはございません。

また、今回の全国大会では13の分科会が設けられ、皆様に参加されたもの以外にも12の地域づくりの取り組みが披露されました。それ以外にも、今回参加できなかった市町においても、さまざまな地域づくりが進められております。

そして、今回11月にお越しいただいておりますが、栃木県は季節ごとに多彩な魅力があり、年間を通してさまざまなイベントが開催されています。今回栃木県にお越しいただいたことをきっかけに、ぜひ栃木県のファンになっていただき、2度、3度、4度と足を運んでいただき、皆様にも栃木県の関係人口の輪に加わっていただければ、これほどありがたいことはございません。

最後になりますが、本日の全体会が皆様にとって有意義なものとなり、また、年末に向けて皆様のご健勝とご活躍が続きますことを心より祈念申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

本日の全体会が充実したものとなりますようお願いしております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

ありがとうございました。



全体会 来賓あいさつ

総務省 地域力創造審議官 恩田 馨 様



皆さんこんにちは。ご紹介いただきました、総務省の地域力創造審議官恩田薫でございます。本日、第41回の地域づくり全国研修交流会栃木大会がこのように開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

また皆様方におかれましては、日頃から地域づくりにご尽力いただいております。改めて感謝申し上げます。せっかくの機会ですので、国の動きを少しご紹介いたします。

現在、新しい高市政権がスタートし、臨時国会では代表質問

や予算委員会が始まったところでございます。順調に行けば今月中に補正予算、経済対策が閣議決定され、補正予算が編成される見込みです。私も地域力創造グループでも、この補正予算に、関連する事業を計上しているところでございます。その中に、皆様方にもご関心をいただいております「ふるさと住民登録制度」がございます。今回の補正予算に計上しており、12月に補正予算が成立すれば来年1月頃から業者選定手続きを行い、システム開発を進め、制度の具体化を図り、来年度中の導入を目指したいと考えております。まずは国がアプリを作成し、国民の皆様がスマートフォンで自分の好きな地域を選んで登録する「ベーシック登録」を導入します。誰でも好きな地域を複数登録でき、登録者には市町村から情報提供が行われます。例えば、「この時期にお祭りがありますので来てください。」というメールが届き、それをきっかけに自分の好きな地域に足を運んでいただくものです。もう1つ、「プレミアム登録」も考えています。この制度は、何回もその地域に来ていただいて、何度も何か地域に貢献していただく。例えば、地域のお困りごとを募っていただいて、そこに一定の回数、参加していただいた方には、自治体の住民と同じようなサービス、例えば公共施設は住民と同じ料金で利用出来る等、そのような制度を自治体へお願いしていく。また自治体では、そのような方々を増やす為に、地元の商店街で買い物した際にクーポン券を渡すなど、色々なサービスを各自治体が考えていただいて、来年度末ぐらいからスタートさせたいと思っております。この取組を通じて、関係人口への関心を高め、最終的には移住・定住につなげていきたいと考えております。その前段階として、二地域居住や空き家活用も進めていきたいと考えております。ぜひ、皆様方からのご意見を伺いながら制度を作り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

地域おこし協力隊については、令和8年度に隊員1万人の達成を目指して取組を進めております。また、「地域活性化起業人」制度について、企業の方々に市町村で仕事をさせていただくため、11月に総務省ホームページ上にマッチングプラットフォームを開設いたしました。ぜひ市町村の方々も登録をしていただき、企業の方々にアクセスしていただいて、企業の知見を活かした取組を進めていただければ幸いです。

それでは最後になりますが、この大会の開催にあたり、栃木県内の地域づくり団体の方々をはじめ、県庁、市町村の関係各位のご尽力によりこのような会ができましたことに、心より御礼申し上げますと共に、ご参加の皆様様の益々のご活躍を祈念いたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。おめでとうございます。

第1分科会 宇都宮市

宇都宮市の大谷石を中心とした観光まちづくりの分科会の活動についてご報告いたします。

1日目、大谷地域の紹介や大谷地域の商店・飲食店が加盟するNPO法人大谷商工観光協力会の活動内容をご紹介します。

その後、大谷資料館へ向かう移動では、大谷地域内を運行する電気自動車「グリーンスローモビリティ」に乗車いただき、地域の景観を楽しみながら移動しました。

大谷資料館では、ガイドさんの案内のもと、大谷石採取場跡地が作り出す神秘的な地下空間を存分に体験していただきました。

続いて、大谷地域で活躍する事業者の皆さまをお招きし、活動内容を紹介するパネルディスカッションを開催しました。参加者からの質問も多く寄せられ、地域で活躍する事業者の生の声を聞く貴重な機会となりました。その後の分科会交流会では、活発に意見交換を行い、有意義な交流の場となりました。

2日目は、大谷地域をめぐる徒歩ツアーからスタートしました。ガイドさんとともに大谷のまちを歩き、他ではなかなか見られない岩肌の景観を眺めながら、心身ともにリフレッシュしていただきました。

その後、現役の採石場である「カネホン採石場」の見学ツアーを実施し、実際の採石場の様子を間近でご覧いただきました。続いて、現代美術家・栗林隆氏による体験型アートインスタレーション「元気炉」を見学し、大谷ならではの特別な体験をしていただきました。

次に、大谷石を使ったアート体験として、大谷石への絵付けやデコページなど複数のメニューから好きなものを選んで取り組んでいただきました。



NPO法人大谷商工観光協力会 菊地さん
宇都宮市 高橋さん

その後、大谷石の石蔵を改装したカフェ「キジハジメテナク」でモンブランを味わっていただき、分科会の最終プログラムとして「アトリエ陶遊舎」で陶芸体験を行い、2日間の工程を締めくくりました。

参加者から頂いたアンケートでは、「活動内容に感動した」「唯一無二の極上体験だった」といったご意見をいただき、大谷地域での体験にご満足いただけたことを大変嬉しく感じております。

分科会を振り返ると、2日間を通して多くの参加者の皆さまが体験に夢中になり、感動されている表情がとても印象的でした。また、パネルディスカッションや交流会では、各地域でまちづくりに取り組む皆さまから貴重なお話を伺うことができ、私どもにとっても学びの多い時間となりました。

今回いただいたご意見を今後の活動の参考とし、引き続き地域の魅力向上に向けて頑張っていきたいと思っております。



第2分科会 足利市

初日は歴史・文化・花のまち中エリア、2日目は里山資源を生かした地域づくりを行う足利北部エリアを巡りました。

1日目の昼食は、おでん屋さん「もっくもっく」で足利産の食材や旬の食材をふんだんに使ったお弁当をいただきました。このお店は足利市へUターンしたご夫婦が営んでおり、女将さんは元地域おこし協力隊です。食後には参加者の自己紹介を行い、ご夫婦からまちの隠れた魅力についてお話を聞くことが出来ました。

次に足利学校へ向かいました。参加者からも「足利学校が楽しみ」とお声がありましたが、足利学校の所長さんから施設案内、特別な時にしか入れない書院の見学をし、学校の先生気分をを味わうことで、参加者の皆さんも気持ちや和らいだ中で見学が出来たと思います。

その後、足利学校近くの国宝「鏝阿寺」を見学し、旧市街地エリアの足利の歴史と文化を感じていただきました。

バス移動し、廃校を活用したアート施設「大久保分校」で元地域おこし協力隊の秋山さんに施設の紹介や活動を聞かせていただき、ワークショップでは「シルクスクリーン」を使ったプリント体験を行いました。

1日目最後は、「あしかがフラワーパーク」。足利の代名詞のようなところですが、パーク開園時から経営に関わる方にお話を伺うことができ、イルミネーションに込めた想いや新しいチャレンジ、地域連携など普段聞けない裏側のお話を聞かせていただきました。

その後、各自イルミネーションを楽しんでいただき、園内にあるレストランで交流会を行いました。足利市への移住者も加わり、地酒や地場の食材を使った料理を食べながら交流を深めました。



第2分科会 後藤委員

分科会2日目は、里山エリアを巡りました。まずは名草地区にある私の作業場で、大麦の藁を使用し、来年の干支である馬を編む麦わら細工体験と、耕作放棄地を使った私の活動についてお話しさせていただきました。

次は名草地区の一番奥にある「イワナパーク」へ移動し、地域の方々が作り上げたこの場所をオーナーの芳川さんから立ち上げ当初の苦労話や目の前に迫る世代交代の話を伺いました。その後お昼ご飯のために各自でイワナを釣り上げました。

イワナが焼きあがるまでの時間は、遊歩道で繋がっている名草キャンプ村へ移動。キャンプ村の若手後継者、津布子夫妻による、小枝を使ったバードコール作り体験を行いました。お昼ごはんは、地元のお母さん手作りのおにぎり弁当と釣ったイワナ、ここでとれた原木なめこ汁もいただきました。

最後は、ココ・ファーム・ワイナリーでワイナリーの見学、農福連携のお話などを聞かせてもらいました。

今回、外からの目で改めて足利の良いところを教えていただき、また自分たちが積み上げてきたことが、少しでも足利の厚みになっているのかなと嬉しく思いました。今後の活動に反映させていきたいと思えます。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。楽しい2日間でした。

第3分科会 栃木市

栃木市は、『地域の「くう」「のむ」「まなぶ」をつなぐ「わ」のまち栃木市』をテーマに、2日間実施しました。

栃木市は蔵の街として知られる一方、市民活動が非常に活発な地域でもあります。今回は2つのエリアを巡り、計10団体の取り組みをご紹介します。

1 日目大平エリアで、観光ボランティアガイドさんによる紙芝居の上演や「大中寺(ダ イウジ)」の見学を行いました。その後、美しい芝生広場が広がる「かかしの里」に移動し、太平南山麓友の会、大平わいわいテラス、田村律之助顕彰会の3団体の活動を紹介しました。かかしの里で収穫したさつまいもを使った焼き芋やお菓子を味わい、地場産ワインやクラフトビールを楽しみながら、懇親会のような雰囲気での交流を深めました。

夕方には蔵の街エリアに移動し、懇親会を開催しました。ここでも栃木の地酒を堪能いただき、参加者同士の交流が大いに盛り上がりました。

懇親会後には有志で夜のまち歩きを行い、巴波川(ウズマガリ)沿いに広がる竹あかりのライトアップを鑑賞し、幻想的な景観を楽しみました。

2日目蔵の街エリアで、午前中は、私が所属するNPO 法人嘉右衛門町(カエノチヨ)伝建地区まちづくり協議会の取り組みをご紹介します。

続いて、伝建地区内で店舗を営む若い店主の皆さんからお話を伺いました。その後、「嘉右衛門町」の名の由来となった岡田嘉右衛門家が代々受け継ぐ「岡田記念館」を見学しました。

昼食は、「とちぎ江戸料理」を味わっていただき、午後はNPO法人歌麿を活かしたまちづくり協議会参加団体のネットワークとちぎより、大河ドラマ「べらぼう」で注目される喜多川歌麿を活かしたPR活動についてお話を伺いました。大河ドラマのファンの方にも大変楽しんでいただける内容でした。



第3分科会 遠藤委員

そして、NPO法人蔵の街遊覧船が運営する遊覧船に乗船し、活動内容について伺いました。

その後は3つのコースに分かれて「テーマ別まち歩き」を実施しました。①観光ボランティアガイドによる栃木市の歴史探訪②建物の維持管理や修理に取り組むNPO法人とちぎ蔵の街職人塾の歴史的建物の案内③栃木市内の高校生が地域のお店を紹介するとちぎ高校生蔵部の案内。参加者17名が興味のあるテーマを選び栃木市の魅力を体験いただきました。

今回のプログラムは、タイトルの通り、地域の「くう」「のむ」「まなぶ」をつなぐ「わ」のまち栃木市を体感いただける内容となりました。アンケートでも「地域の取り組みを知ることができ勉強になりました」など様々なご意見をいただきました。

私自身も、とても楽しい3日間を過ごすことができましたし、本当に素敵な皆さまにご参加いただいたことで、今後の地域づくりに活かせる学びがありました。これからも全国各地で交流を深めていければと思っております。今後とも皆さんよろしくお願いたします。また栃木市でお待ちしています。



第4分科会 佐野市

他の分科会に比べ、私たち佐野市ちょっと尖った内容でやらせていただきました。

栃木大会でありながら、集合場所を東京・浅草駅とし、佐野市に着いてからは自転車で30 km走行するプログラムです。私たち「サイクルタウンさの推進委員会」は、サイクリストの皆様にも佐野市へ足を運んでいただき、関係人口をどのように増やしていくかを日々考えながら活動しております。

昨年開催したサイクルイベントの際に、東武鉄道さんのご協力のもと、浅草駅発・佐野市着の臨時列車「スカイツリートレイン」を参加者限定で運行し、首都圏のサイクリストにも佐野市へ来ていただく流れを作ることができました。今回も同様に臨時列車に乗車し、4両編成に12名というゆったりとした空間の中で活動紹介をしました。

佐野市到着後、市北部にある蓬山レストランでそば打ち体験を実施しました。コシのある麺をつくるには力を込めてこねる必要があり、参加者同士で協力しながら取り組んでいただきました。そば打ち体験の講師の方が非常に面白い方で、「上手だよ！太いけど・・・」「(太くても)いいの！個性があって美味しいと思うよ！茹でるの大変だけど・・・」と時折ユーモアを交えながら、まるで親戚のおばちゃんのような温かいおもてなしの心を感じられる時間となりました。参加者の皆さまが打ったそばは、固まってしまったものもありましたが、自分で打ったそばの味は格別だと感じられる、楽しい体験になったと思います。

その後、自転車に乗り、約30 kmの下り基調のコースを走行しました。参加者の希望に合わせて、クロスバイク・シティサイクル・電動アシスト付き自転車を用意し、無理なく楽しみながら走行することができました。



第4分科会 石川委員

ゴール地点とした出流原弁天池では、日本名水百選に選ばれたとても綺麗な景色を眺めながら、売店で売っている佐野名物のいもフライを味わっていただきました。店員さんがお客様とじゃんけんをするという、日頃から続けているおもてなしがありまして、今回も特別な対応でなく、普段通りの温かいおもてなしに触れていただき、笑い声の絶えない楽しい時間となりました。

その後の交流会では、佐野グルメと地酒を味わっていただきながら交流を深めました。

2日目は、佐野らーめんの特徴である、青竹を使った麺打ち体験をしていただきました。参加者の皆さまが打った麺を試食した後、唐沢山神社を散策し、さらに、佐野らーめん店で昼食も召し上がっていただき、そばとラーメンの麺づくしの2日間を過ごしていただきました。参加者の方からは、我々の尖った内容が非常に良かったと言っていただき、一安心したところでございます。最後にこのような機会をいただきまして、当初は不安も多かったのですが、皆様からご意見をいただき、有意義な時間となりました。



全体会 各分科会発表

第5分科会 鹿沼市

本分科会では、2つのテーマで視察・体験を行っていただきました。テーマの1つ目は、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域内の移動をボランティアの皆様が支援する「シニアサポートモビリティ」の取組です。テーマの2つ目は、中山間地域が広範囲にわたる鹿沼市において、耕作放棄地の課題解決に地域一丸となって取り組む「板荷畑いづくし美会」の活動紹介です。こちらでは、耕作放棄地で収穫したそば粉を使ったそば打ち体験も行いました。

第5分科会には、北は青森県から南は長崎県まで、9名の方にご参加いただき、真剣かつ和やかな楽しい雰囲気で行うことができました。

分科会1日目は、高齢者の移動支援について紹介しました。スマイルきくさわでは、地域の笑顔を運ぶという願いも込めて、移動支援に使用する車を「スマイル号」と名付け、日々運行しています。ある日、移動支援を利用されている方の中に、日本舞踊のお師匠さんをされている方がいらっしゃいまして、「こんな素晴らしい取組なのだから、私が振り付けを提案するので”スマイル音頭”として踊ってみてはどう？」とご提案をいただきました。そこで、移動支援ボランティアの皆さんが活動内容を表現した歌詞を作成し、スマイル号に関わる皆様が集まる「スマイルカフェ」の場でみんなで踊りを楽しんでおります。今回は、参加者の方も一緒に楽しく踊っていただきました。

1日目の夜は交流会を開催し、鹿沼市の地酒や地の物をふんだんに使ったとても美味しいお料理をいただきながら交流を深めました。



第5分科会 紺野委員

分科会2日目は、板荷地区のいづくし美会の取組について紹介しました。農業者の担い手不足、耕作放棄地の増加、鳥獣被害の拡大といった負のスパイラルを脱却し、互助の集落営農、地域交流をとおして、魅力ある里地里山を形成し、地域の人を「いづくしむ心を育みたい」との思いで取り組まれています。

参加者との交流の中で、多くの激励の言葉をいただき、今後の活動の励みになりました。また、自分たちの活動を客観視することができ、今後の取組に向け大きな収穫となりました。全体報告会を含め3日間の短い間でしたが、大変貴重な機会をいただき感謝しております。ありがとうございました。



第6分科会 日光市

『繁栄の「光と影」から掘り起こす、地域資源の活かし方』をテーマに、紅葉がようやく始まった日光市を巡りました。

日光市は栃木県の約4分の1を占める非常に広いエリアを持つ市です。今回はその中で、足尾銅山と旧日光市エリアを歩きました。

1日目は、東武日光駅に集合し、足尾銅山記念館を訪れました。古河グループが整備し、今年8月8日に開館したばかりの施設で、足尾銅山の歴史について学びました。

続いて、「足尾に緑を育てる会」の活動現場を見学しました。足尾銅山の影響で山肌が失われたところに、ボランティアの皆さんたちが森林再生に取り組んでいる様子を見学しました。その後、公害問題とその対策の原点ともいえる古河橋と製錬所を訪れ紹介しました。

日光明峰高校の生徒の皆さんが「日光学」の一環として、地域の魅力を掘り起こす学習を行っており、特に足尾に関する研究成果として、全国の鉱山がある地域の学校が参加する「金銀銅サミット」での発表内容を紹介していただきました。その後、「足尾銅山の世界遺産登録を推進する会」の取り組みを紹介しました。

さらに、足尾銅山観光へ移動して、かつての坑道跡を見学しました。営業時は照明がついていますが、今回はあえて営業終了後の真っ暗な坑道を皆さんにヘッドライトをつけて歩いていただき、当時の坑夫の方々の思いに触れる基調な体験をしていただきました。

見学後は、宿へ向かいました。周囲には熊と鹿しかいない静かな環境で、皆さんには宿の中でゆっくりとくつろいでいただきました。



第6分科会 山田委員

2日目は旧日光市エリアに入り、JR日光駅から日光門前まちづくりの皆さんに街の中を案内していただきました。日光と聞くと、多くの方が二社一寺を思い浮かべるとは思いますが、今回はあえてそこには行かず、「祭(いのり)のまち」として日光の社寺を支えてきた地域の皆さんの暮らし、歴史と伝統の街並みを散策していただきました。案内は日光駅前、いわば日光の玄関口から始まり、玄関口としての役割や街を構成する町(ちょう)の成り立ちについて説明を受けながら歩きました。最終的には世界遺産の入口神橋まで進み、その後、地域の活動内容について、意見交換を行いました。

参加者の皆さんからは、高齢化をはじめとする共通の課題など、多くのご意見をいただきました。

私たちは世界遺産や豊かな地域資源に恵まれたところに暮らしていますが、地域として担う責任や課題も非常に大きいと感じています。今回は光と影という視点からご案内させていただきましたが、今後も地域の魅力を掘り起こしながら、まちづくりを進めていきたいと考えております。ぜひまた日光へお越しください。ありがとうございました。

第7分科会 小山市・下野市

1日目は、JR小山駅に集合し、そのまま小山市役所へ向かいました。そこで、地域づくりを推進する団体「PLAN OYAMAプラットフォーム」の取り組みや「いちごの里」の活動についてお話を伺いました。その後、いちごの里に移動し、いちご狩りを体験しました。いちご狩りの時期には少し早かったですが、「とちあいか」という品種をいくつか摘んで味わっていただけたほか、いちごのタルトをなど購入される方もおり、いちごを堪能いただけたのではないかなと思います。

その後、須賀神社を訪れました。徳川家康が上杉家討伐のため会津へ向かう途中、石田三成の挙兵を知り、戦勝祈願をしたと伝わる由緒ある神社で、私たちの旅の安全をご祈祷をして頂きました。

2日目は、どの分科会よりも早いスケジュールで、6時30分に起床し7時に出発しました。目的は「バルーンフェスタ」というイベントを見学するためです。競技レースもあり熱気球が飛び出す様子を見学し、私たち自身も熱気球に搭乗体験を行い、10m以上の高さまで浮上しました。その後、西堀酒造を訪れ酒蔵の見学と試飲を行いました。

続いて下野市の紹介に移ります。「シモツケクリエイティブ」の皆さまに、各スポットを紹介していただきました。ランチは天平の丘公園にある「10picnic tables」でハンバーグ弁当をいただき、とても美味しかったです。

その後、「吉田村VILLAGE」を訪れました。古い石蔵を活用し、雑貨屋さんやパン屋さん、ワークショップスペースが入る施設を見学しました。

次に「道の駅しもつけ」へ移動し、シモツケクリエイティブの方が経営するジェラート屋さんでジェラートをいただきました。最後に「シェアスペースWEL」を訪れ、地域の方々が交流する様子や駄菓子屋さんの見学を行いました。



第7分科会 山口委員・渡邊委員
魅力発信サポーター 白岩さん・宗像さん

今回ご紹介したところは、いずれも「何もないところから始まった」取り組みです。たとえば、10picnic tablesは元々民族資料館で、館内は暗い雰囲気でしたし、吉田村VILLAGEは石蔵、シェアスペースWELは空き店舗でしたが、いずれも明るく、地域の方々が楽しめる魅力的な場所へと生まれ変わっています。

参加者の皆様からは、「地域の魅力や地域の方々のパワーを感じた」「自分たちのまちづくりの刺激を沢山得られた」という感想が多く寄せられました。

私自身、小山に19年間住んでいて慣れてしまった部分がありましたが、県外から来られた皆様が喜んでくださったことが、小山をさらに好きになる理由の1つとなり、今回の大会に参加できて非常に楽しかったです。

私も下野市を巡って最高だなと思いました。

参加いただいた皆様ありがとうございました。



第8分科会 真岡市

昨年からのこのプログラム内容を検討する中で、他の分科会と比べて体験型のコンテンツが多くないことが課題でした。今回は、真岡市に暮らす「地域の人」を知っていただくことをテーマに企画を構成しました。

1日目は最近新しくできました複合交流拠点施設「monaca」を訪れました。1階はリビングフロア、2階は子育てスペースでフロア全体が子供のための空間になっています。3階は図書館になっており、行政視察のようになってしまいましたが、施設全体を見学いただきました。

その後、自治体が運営する「まちなか保健室」を訪問し、健康麻雀などの取り組みについて施設の方からお話を伺いました。

その後、門前エリアへ移動しました。この地域について、なぜ大人の方々はこだわりを持って活動しているのか疑問に思っていました。昭和42年頃の古い地図を見ると、多くの店舗が立ち並ぶにぎわいがあったことが分かりました。現在は空き店舗や空き地も見られ、かつての姿を思うと少しもったいない使われ方になっていると感じます。今回は、当時の風景を残す空き店舗を活用した家具屋さんなどを見学していただきました。

その後、「あらかると」というお店で楽しく交流会を行いました。こちらの牛タンがとても美味しく、遠方の方はなかなか足を運びにくいかもしれませんが、機会があればぜひこの牛タンを食べにいらしてください。

2日目は、林さんが取り組んでいる「真岡まちづくりプロジェクト」の「まちづくり拠点コレカラ」という施設を訪れました。



第8分科会 林副委員長
真岡市 沖津さん

元々新聞店だった建物をまちづくりのプロジェクトメンバーが壁を白く塗り直すなどしてリノベーションした場所で、写真映えする空間として生まれ変わっています。ここで朝ごはんを食べました。益子焼の釜で炊いた炊き立てのご飯を味わっていただきました。

参加者の皆さまから沢山のアンケートをいただきましたが、私たちの地域づくりで大切にしている言葉があります。それは「1人の100歩よりも100人の1歩」です。1人のスーパースターがすごいまちづくりをするのではなく、100人が小さな1歩を踏み出すことが大事という考え方で、今回はその100人の一端を感じていただきたく、5名ほどでしたが、地域の人に出会っていただく分科会を実施しました。

また栃木県に遊びに来てください。ありがとうございました。



第9分科会 大田原市

1日目、元地域おこし協力隊の方が、当時築65年の建物を改修して開業した「café as」にて、オリエンテーションを行いました。アクティブシニアの頭文字をとって名付けた「as(アズ)」は、いきいきと活動するシニア世代の皆さんの憩いの場となっており、どこか懐かしい、そんな雰囲気と共に大田原市をご紹介します。

その後、私達、一般社団法人えんがおが取り組む、全世代参加型の地域づくり、コミュニティづくりに関するセミナーと、まちあるきを通した施設紹介を実施しました。セミナーでは、私達の取組について動画をご視聴いただき、その後、実際の活動の現場となっている「地域サロン」「シェアハウス」「グループホーム」「学童保育」などを巡りました。

中心市街地の徒歩圏内で、すべての施設をあえて回れるように配置した理由をお話しました。1日目の最後には、那須野ヶ原ベルビューホテルにて、分科会交流会を開催しました。大田原市には酒蔵が多くあり、それぞれ特色ある酒造りを行っております。交流会では、そんな市内の酒蔵一押しのお酒に加え、普段はなかなか口にできない、希少な地域限定販売のお酒も楽しんでいただきました。

2日目の午前には、那須国古代ロマンプロジェクトの活動を紹介します。湯津上地区に残る史跡と、それらを多くの方に知ってもらいたいと活動する人々の情熱を感じてもらいました。



第9分科会 濱野委員

大田原市内を流れる那珂川は、鮎の漁獲量が日本屈指ということもあり、昼食は「黒羽観光やな」で、人気の鮎の釜めしと鮎の塩焼きと鮎三味のお食事でした。

午後は、黒羽地区の「黒羽芭蕉の館」と、国の重要文化財の指定を受けている「大雄寺」の見学を行いました。午前中に見学した湯津上地区と黒羽地区、それぞれ時代が異なる歴史遺産について紹介しました。

参加者の皆様には、大田原市の中心市街地で行われている地域づくりの取り組みと、歴史遺産を活かした地域活性化の取組の両方を体験いただきました。また、分科会交流会では、地域づくりの進め方やご自身の地域の課題についてなど、活発な議論が交わされ、大変印象的な時間となりました。

全国各地から、大田原市にお越しいただきありがとうございました。私自身も、地域で活動する中で、まだ知らなかった大田原市の魅力に、改めて気付かされました。また、各地で皆様が真剣に地域のことを考え、日々取り組まれていることを知り、大変有意義な時間となりました。

第10分科会 矢板市

矢板市では『矢板市が挑む！資源再活用のこれからの新しい地域づくり』をテーマに実施しました。

1日目、矢板駅に集合後、「矢板ふるさと支援センターTAKIBI」と「スローワーク矢板」を訪問しました。「TAKIBI」は書店跡地を改装し、小学生から大人までが利用できるフリースペースやシェアキッチンとして活用されている施設です。

続いて訪れた長峰公園は、元野球場の形状を活かした円形の公園で、時間帯に関わらず、散歩や犬と遊ぶ住民の姿があり、地域に愛されている公園だと感じました。

その後、1日目の宿泊場所となる「ミツモチ小学校」へ移動しました。ここは、廃校となった旧長井小学校をリノベーションした宿泊施設で、中庭で焼き火体験など普段は味わえない貴重な体験ができました。

経営者が隣にいらっしゃるのですが、用途変更の難しさなど施設運営にまつわる裏側のお話も伺うことができました。夕食のバーベキューでは、地域住民の皆さまと交流し、美味しい食事とともに地域の声を聞くことができ、大変学びの多い時間となりました。

2日目は「道の駅やいた」からスタートしました。2024年には売上9億円を達成した、市内でも大きな拠点となる道の駅です。

続いて訪れた「58口ハスクラブ」は、ゴルフ場跡地を再活用し、ドッグランやペットツーリズムなど多様なサービスを展開している施設です。経営者の方からお話を伺い、ゴルフ場の再活用は平地であるため比較的容易なのではないかと考えていましたが、実際は配水管や送電線など多くの課題があり、その中でどのようにお客様のニーズに応えていくのかという点が学びになりました。



第10分科会 手塚委員長
魅力発信サポーター 伊達さん

その後、大手電機メーカーの工場跡地を再活用した「デカーレ矢板」を訪問しました。続いて、矢板を盛り上げるために活動している高校生団体「YAD」と交流し、高校生のエネルギーを感じられてとても刺激を受けました。

参加者の皆様からのアンケートでは、「大手電機メーカー撤退後の地域の再生に頑張る若者や経営者、高校生のチャレンジに感動した」といった感想もいただき、サポーターとしてとても嬉しく感じました。私自身、この活動を通じて経営者の方々と直接お話しする機会が多く、普段は聞けない裏話や資金面のお話など地域づくりの実情に触れることができ、大変勉強になりました。

今回矢板市にお越しいただいた皆さまには、矢板市の魅力を感じていただけたのではないかと思います。発表を通じて興味を持ってくださった方もぜひ矢板市に足を運んでください。お待ちしております。ありがとうございました。



第11分科会 那須塩原市

『扇状地に広がる自然とコミュニティで沸き起こるアートなまち』をテーマに、雄大な自然と歴史が織りなす那須塩原市の魅力を体感しながら、本市のパーパス“好きを、編む”が体現された様々なまちづくりを感じていただく2日間となりました。

初日は JR黒磯駅前にある那須塩原市の顔、「那須塩原市図書館みるる」にて、ART369プロジェクトのこれまでの活動内容をご紹介します。

続いて、グッドデザイン賞など受賞し国内外で活躍する「細山田デザイン事務所」を訪問し、金属や木などで作られた、凸型のにインクをのせて印刷する活版印刷の体験を行いました。

その後は、県道369号線を徒歩とバスで巡りながら、全国的に知られるSHOZOcaféを中心とした「SHOZO通り」、そして明治時代の外務大臣・青木周蔵氏の別邸「旧青木家那須別邸」と、併設の「道の駅 明治の森・黒磯」でフリータイムを設け、街歩きや買い物を楽しんでいただきました。

夕方の交流会では、那須塩原市の地酒やワイン、地元の旬な食材を使った料理を囲みながら、参加者同士で意見交換が行われました。

2日目は、板室温泉にある「アートと保養の宿」として知られる「大黒屋」を訪れました。室井会長から、現代美術作家・菅木志雄氏の作品について熱のこもったご紹介をしていただきました。朝8時半からのスタートでしたが、会長と参加者の皆さんの波長があって、まるで漫才を見ているかのようなとても楽しい時間が流れていました。

次に、那須塩原市は生乳生産量が本州1位という強みがあり、地域には多くの牛がいます。その魅力を感じられる「千本松牧場」を訪れ、ランチを楽しんでいただきました。



第11分科会 樋爪委員
ART369プロジェクト 豊田さん

続いて塩原温泉へ移動し、紅葉が美しい時期ということもあり、塩原温泉まちめぐり案内人の方に地域の歴史や魅力をご紹介します。また、塩原は多くの文豪が訪れた地でもあり、夏目漱石や与謝野晶子などにゆかりのある文学碑も案内していただきました。

参加者の皆さまからのアンケートでは、「文化のある街は素敵だと感じた」「アートという切り口の紹介だったが他の地域づくりにも生かせる内容でした」「まだまだ食べたいもの、見たい景色がたくさんある」など嬉しいご感想をいただきました。

私たちART369プロジェクトは、アートと自然がインスピレーションを与えて、那須塩原市のコミュニティがそれを育てる、その循環こそ私たちの街の魅力であり未来への力だと思っております。

ぜひまた那須塩原市にお越しいただければと思います。ありがとうございました。



第12分科会 茂木町

茂木町では、「そばの里まぎの」の取り組みを中心に町内施設をご紹介いたしました。

そばの里まぎのがある牧野(まぎの)地区は、明治から昭和初期にかけて葉たばこ栽培が盛んに行われていた地区です。葉たばこ栽培が下火になると、農地の荒廃が進み、地域の景観を損ねるようになってしまいました。そこで、地域の農地復活と地域活性化のため地域住民が立ち上がり、そば栽培とそばオーナー制度を開始しました。セイダカアワダチソウが生い茂り荒廃していた農地が蘇り、現在、牧野地区では地元の有志の方がそばレストランを運営するにまで至りました。

1日目、そば粉を使用したスイーツを食べながら、参加者の皆様の自己紹介と牧野地区の取り組みについて説明しました。

続いて、町独自のリサイクルシステムを構築した町の堆肥センター「美土里館」へご案内後、町有林の木材をふんだんに使用して建設された図書館「ふみの森もてぎ」を見学いただきました。

その後、「モビリティリゾートもてぎ」で交流会を開催しました。そばを使用した「そば焼酎まぎの」などを景品に、皆さんでじゃんけん大会を行うなど、穏やかな雰囲気の中で開催できました。

2日目は、二輪の世界大会や四輪の国内大会が開催されるサーキット「モビリティリゾートもてぎ」を見学しました。普段は入ることができないコースやVIP観覧席なども案内していただき、貴重な体験となりました。

その後、そばの里まぎのへ移動し、地元のそば打ち名人によるお手本を見た後、参加者皆様にもそば打ちを体験していただき、ご自身で打ったそばを昼食として召し上がっていただきました。



第12分科会 石川委員
茂木町 大瀧さん

初心者の方が多いというお話でしたが、皆さんとても上手で、細く綺麗なそばが出来上がり、楽しくそば打ち体験をしていただくことができました。

最後に、県内第1号に指定された「道の駅もてぎ」を見学の後、皆さん思い思いにお買い物を楽しんでいただき茂木町の特産品をお買い上げいただきました。

茂木町は小さい町ですが、各地区で地域活性化に向けた様々な取り組みを行っています。ほんの一部ですが、皆様で紹介できて大変嬉しく思っております。参加者の皆様からも「地域の方の熱意を感じた」など温かいお言葉をいただきました。

今回茂木町を会場に分科会を開催でき、そして私自身、1度も訪れたことがない地域の皆様と交流できたことを嬉しく思っております。3日間、全国から地域づくりに取り組む団体や行政の皆さまと交流する中で、改めて地域活性化と地域づくりを考える良い機会になりました。過疎化が進む牧野地区で、今後も地域活性化のため取り組んでいく勇気をいただきました。3日間、本当に皆様ありがとうございました。



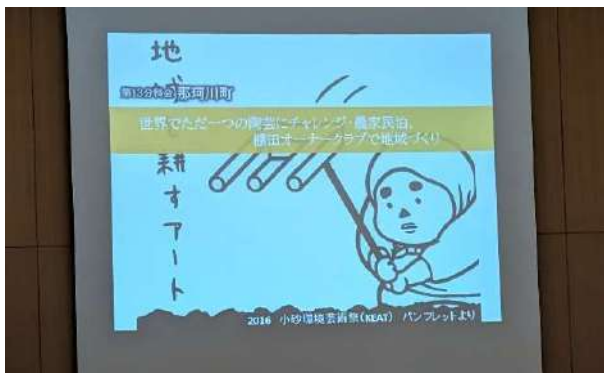
第13分科会 那珂川町

那珂川町は栃木県で1番最初に消滅する自治体なんていうことで、名誉ある自治体に選ばれた、そのようなことで、小砂village協議会だけでもなんとか残すべというこで始まっております。

1日目は半日のプログラムでしたので、始めに小砂環境芸術祭で武蔵野美術大学の4年生高山端さんが1ヶ月かけて作った両面を彫刻した作品などを見学しました。村の中にたくさんの作品が点在しており、地域住民と共存し様々な作品がある風景を感じていただけだと思います。

その後、ろくろ体験を行っていただきました。普通は形がグシャと崩れてしまうのですが、10人いて1人もグシャとなった人がおりませんでした。立派な作品ができていましたので、来年の1月中旬頃に完成し、自宅へお届けする予定です。「え、自分で作ったのかな？」と思うほど立派な作品が届くと思います。世界の宝にしていればと思います。

2日目は、国の登録有形文化財である「飯塚邸」をご案内しました。江戸時代末期に建てられた豪商の邸宅を散策していただきました。交付金5,000万円を活用し、総額1億100万円をかけてリノベーションを行いました。6棟の建物があり、コロナ禍で1年間休んだのですが、現在も主にインバウンドの方を中心に宿泊いただいております。



第13分科会 藤田委員

飯塚邸には、セミダブルベッドが置いてあるのですが、100万円のシモンズのベッドが2つ入ってます。ですので長期滞在に活用できるような建物になってます。ほとんど毎日のように予約が入ってます。

この後、先ほど矢板市分科会から説明がありましたデカーレ矢板さんでやっているバイオマス発電所の散策をしていただきました。ここは廃校になった馬頭東中学校を活用し、木材をチップ化してバイオマス発電に活用しています。

分科会を振り返って、短い間でしたがイノシシ鍋やホンモロコを食べたり、あと手作りハムを食べたりということで、たくさん食べていただいて、多分1kg2kg増えたんじゃないかなと思います。以上です、ありがとうございました。



全体会 フォトギャラリー

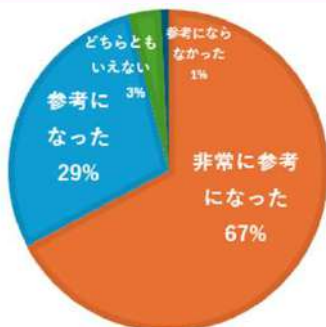


参加者アンケート



分科会

分科会の内容はご自身の活動の参考になりましたか？



- 地域の皆さんが生き活きと楽しみながら地域づくりに取り組み行政もサポートし一体感をもった体制となっていることに感銘を受けた。
- 高校生目線での地域の魅力発信されてるところがとても良かったと思います。それぞれの団体の方が地域に対する思いがとても強いと感じました。幅広い年齢の方が魅力発信をされていて感動しました。
- 地域を作っているのは、まさに人だと感じた。ただ、後継者不足の問題はどこも同じでした。そこに対する対策が課題に感じた。

分科会で訪れた地域について魅力的に感じた点を教えてください。

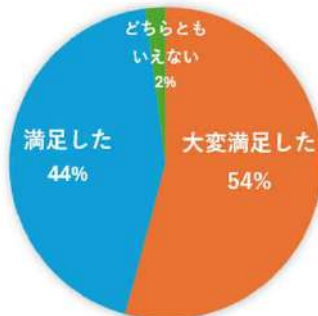
(複数回答可)



- 地域のみなさんの地元を思う熱量がとても伝わる分科会でした。ただせっかくいいお店をつくられていても、一見客にとっては分かりにくいところが残念です。
- 2日間、様々な企画、事前の調整をして頂きありがとうございます。参加前に少しだけ調べて参加致しましたが、現地で学ぶことが深い理解につながりました。本当に楽しく、あっという間に過ぎた感覚です。
- 自分の住んでいる町と遠く離れた違う文化の体験ができ、面白かった。

全体交流会

全体交流会のはいかがでしたか？



- 参加者のみなさんと交流しやすい環境でした！特に印象に残ったのは食事、外に屋台が用意してあることにびっくりしました。餃子もラーメンも、できたてをいただくことができ、嬉しかったです。美味しかったです！
- 立食形式で多くの人と気軽に交流できてよかった。異なる分科会の方と同じテーブルだったため、内容や感想を聞くことができ興味深かった。
- 各テーブルに開催地(栃木県や各市)関係者を配置して参加者の交流を促して欲しかった。

全体交流会で印象に残った点を教えてください。

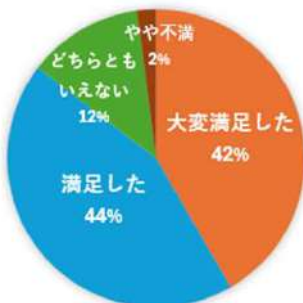
(複数回答可)



- 知事や市長のお話から、栃木県の課題や地域振興への熱意を感じることができました。また、食事では他の分科会の方とお話することができ、栃木県の様々な場所における多様な魅力を再認識できました。
- 栃木県の美味しい料理やお酒をいただきながら、全国各地の方から様々なお話を聞くことができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。

全体会

全体会のはいかがでしたか？



- 各分科会の内容がよく分かりました！分科会の数が多いので5分ずつの発表はちょうどよかったです。
- 見ざる言わざる聞かざるを使った発表の時間コントロールは運営ルールとして面白かった。
- 大学生サポーターの発言に、これからの地域づくりへの希望を感じました。
- 各分科会の発表がそれぞれに個性的で良かった。最終報告書が楽しみだ。全体交流会と同じか、近い場所の方が良かった。

その他ご意見

- 栃木県の印象はなかったが、今回参加させてもらってメチャメチャ好きになりました。今度は違う地域にも行ってみたいと思います。
- 皆さん凄く頑張ってたと思いますが、地域の顔があまり見れなかったと思います。ブロックになって大きな性格差があったようですね。地域づくりが大きな曲がり角に来てる感じが強くなる。
- ホテルから会場までの足が大変でしたが、このための準備や当日の進営のスタッフのみなさんに感謝申し上げます。ありがとうございました。
- 初めて栃木県にお邪魔しました。分科会の体験や交流会を通して、地域づくりの素晴らしさを改めて感じる事ができました。この経験を地元へ帰って活かしていきます。ありがとうございました。栃木県に感謝！
- 伝統や文化、美味しい食事など多様な魅力があると感じました。また、おだやかな人が多く、見ざる言わざる聞かざるやとちまるくんが可愛い印象でした。

魅力発信サポーター活動報告会 11月29日(土)



本大会には「魅力発信サポーター」として、大会準備から当日の運営までサポートしてくれた県内大学生12名に参加いただきました。

大会終了後の11月29日に、学生達が約4ヶ月に渡る活動を通して発見した地域の魅力や様々な気づき等を発表する活動報告会を開催しました。



大会法被を身にまとった学生からは、各分科会での実施内容や参加者の様子を写真や動画を交えながら個性豊かに紹介していただきました。

また、「地域に貢献する住民の熱意を感じた」「今後も団体の活動に参加したい」などの感想もあり、改めて地域について考え、知ることや地域と学生をつなげるきっかけになったと感じています。



○そば打ち体験inそばの里まきの隣の公民館

- ・3グループに分岐
- ・職人の手本を見てから実践→どうやるかイメージ◎
- ・自分たちで打ったそばと職人が打ったそばを食べ比べ

- ・同じ体験を共有
→参加者同士の会話◎
- ・町の人の魅力 肌で実感できる

そばをのぼしている動画→



活動報告会の様子は下記URL又は二次元コードから視聴可能です▼

https://youtu.be/DHN3tHc_Y2o?si=Colh6KP EUrmQL3J



一緒に大会を盛り上げてくれた魅力発信サポーターの皆さん
ありがとうございました！

全体会 次回開催県 長野県PR

次回開催あいさつ

第42回地域づくり団体全国研修交流会長野大会

大会テーマ

【豊かな山々と育む知恵～地域づくりは信州から～】

開催日時

令和8年10月23日(金)～25日(日)



第1分科会 佐久ブロック

佐久地域は、移住者が地域資源を生かして新たな魅力を生み出しています。北相木村での花束製作ワークショップや、小諸市で移住創業の火付け役の「おしゃれ田舎プロジェクト」の活動紹介や街歩きを行います。

第6分科会 木曽ブロック

長野県西南端に位置する妻籠宿は、江戸期の面影を色濃く残す宿場町で、景観保全と文化継承に取り組んでいます。妻籠宿を散策しながら、取り組みをご紹介します。受け継がれてきた木曽路の美しい景観をご堪能ください！

第2分科会 上田ブロック

上田地域は、高原野菜や松茸、ワイン用ぶどうの名産地です。日本遺産の別所温泉や上田城、北国街道の街並みなど歴史ある風景も魅力です。地域づくりの仕掛け人や、にぎわいを生み出す取り組みを紹介します。

第7分科会 松本ブロック

安曇野の歴史文化景観遺産の存在や成り立ち、地域の”お宝”を子供たちに伝えていく学習支援活動「謎解きウォーク」を体験いただきます。安曇野わさび田湧水群の視察や伝統工芸の木曽漆器の研ぎ出し体験も行います！

第3分科会 諏訪ブロック

諏訪地域では、「ユニバーサルツーリズム」を推進しています。地域で進むユニバーサルデザインやバリアフリーの取り組み紹介、対応を進める旅館・ホテル・美術館を見学。合理的配慮でまちを豊かにするプロセスを体感していただけます。

第8分科会 北アルプス ブロック

パラリンピック開催地・白馬でのユニバーサルツーリズム体験や、地元のお母さんたちによる横山タカ子さん監修の料理と民話のおもてなし。広葉樹の天然林を守り活かす活動の見学・体験を通して地域の魅力を感じてください。

第4分科会 上伊那 ブロック

長野県の中央部に位置する上伊那は、南アルプスと中央アルプスに抱かれた自然豊かな地域です。雄大な自然を体感しながら、トビチ商店街が生み出す新たな「創造」と高遠石工が受け継ぐ「伝統」という二つの魅力をご案内します。

第9分科会 長野ブロック

千曲市は、姨捨の棚田に映る「田毎の月」を中心に日本遺産「月の都千曲」に認定された、自然と文化が調和する地域です。さらしな月を題材にした舞曲づくりや観光ガイド活動など地域資源を活かした取り組みを紹介します。

第5分科会 南信州 ブロック

中央・南アルプスに囲まれ、天竜川が流れる自然豊かな地域です。放置竹林を整備し竹を地域資源として活用する取り組みや、湧き水「一番清水」を守り育てる活動を紹介。自然資源を生かした持続可能な地域づくりを紹介します。

第10分科会 北信ブロック

飯山市は、伝統的な街並みや文化、四季の景観が魅力のまちです。持続する集落を創る「集落経営」を学び、「未来のムラ創造プロジェクト」(エリアマネジメント)の実践に触れ、地域を自ら経営する取り組みを体験していただけます。



参加者一覧



〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

第1分科会 宇都宮市

宮崎県	中村 光彦	宮崎県地域づくり協議会
宮崎県	金丸 美保子	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	日高 茂信	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	松尾 光芳	長崎県地域づくりネットワーク協議会
沖縄県	西銘 史則	公益社団法人沖縄県地域振興協会
三重県	川井 勝	一般社団法人地域連携ネットワークみえ
長野県	牛山 玲子	ユニバーサルサポートすわ
福岡県	駄田井 正	地域づくりネットワーク福岡県協議会
宮崎県	植村 道広	NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会
和歌山県	佐々木 健	和歌山県西牟婁振興局地域づくり課
長野県	長崎 光希	長野県諏訪地域振興局企画振興課
和歌山県	山本 美智子	海草振興局地域づくり課
和歌山県	古澤 拓哉	和歌山県
島根県	田邊 光	えーひだカンパニー株式会社
宮崎県	中原 香津子	NPO法人どんぐり1000年の森をつくる会
東京都	椎川 忍	地域づくり団体全国協議会
東京都	西村 幸夫	地域づくり団体全国協議会
東京都	平井 太郎	地域づくり団体全国協議会
和歌山県	金谷 絵子	和歌山県庁伊都振興局地域づくり課

第2分科会 足利市

沖縄県	比嘉 順子	公益社団法人沖縄県地域振興協会
沖縄県	佐久本 愉	公益社団法人沖縄県地域振興協会
沖縄県	山城 定雄	公益社団法人沖縄県地域振興協会
福岡県	福田 尚子	福岡県政策支援課
兵庫県	東 秀紀	兵庫県企画部地域振興課
東京都	藤本 英子	地域づくり団体全国協議会
埼玉県	豊田 遥	埼玉県企画財政部地域政策課
長野県	鈴木 幸佳	(特非)ぐるったネットワーク大町
長崎県	中山 忠治	吉岐・島おこし応援隊「チーム防人」

第3分科会 栃木市

島根県	遠藤 正嗣	今福まちづくり委員会
群馬県	山崎 紫生	文科創生研究所
宮崎県	鶴羽 浩	宮崎県地域づくり協議会
宮崎県	吉谷 直美	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	米澤 萌衣	宮崎大学
宮崎県	米 脩佑	宮崎大学
宮崎県	末永 雄大	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
島根県	宮内 正勝	サウンドファイブ夢の音会
福岡県	岩永 昌子	地域づくりネットワーク福岡県協議会
和歌山県	吉田 圭佑	和歌山県 那賀振興局 地域づくり課
熊本県	秋丸 秀治	山江村観光交流促進協議会
長野県	望月 彰	NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団
東京都	林崎 理	地域づくり団体全国協議会
東京都	大橋 賢二	地域づくり団体全国協議会
東京都	野田 義揮	地域づくり団体全国協議会
群馬県	岡田 真依	群馬県地域創生部地域創生課
熊本県	藤田 雄哉	山江村観光交流促進協議会

〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

第4分科会 佐野市

沖縄県	長濱 為一	公益社団法人沖縄県地域振興協会
沖縄県	比嘉 等	公益社団法人沖縄県地域振興協会
長野県	藤井 壮太	長野県企画振興部地域振興課
福岡県	鎌谷 一郎	北九州市市民活動推進課
東京都	大津 優衣	地域づくり団体全国協議会
栃木県	増山 智也	栃木県
栃木県	小林 祐貴	栃木県

第5分科会 鹿沼市

長崎県	大島 利通	渡良小学校区まちづくり協議会
埼玉県	都築 公子	社会福祉法人はなみずき会
青森県	四戸 泰明	青森県地域づくりネットワーク推進協議会
東京都	竹村 直人	地域づくり団体全国協議会
長野県	木曾 茂	東信州雪合戦協会
栃木県	西須 紀昭	NPO法人釜川から育む会
栃木県	薄井 益美	栃木県社会福祉協議会 施設福祉課
栃木県	江連 加奈衣	栃木県社会福祉協議会 施設福祉課
栃木県	森田 美雪	栃木県社会福祉協議会 施設福祉課

第6分科会 日光市

長崎県	山口 澄子	NPO法人アクロス五島
長崎県	小柳 順一	NPO法人アクロス五島
長崎県	吉田 寛司	NPO法人アクロス五島
福岡県	栗焼 憲児	地域づくりネットワーク福岡県協議会
長野県	松倉 弘樹	長野県北信地域振興局企画振興課
埼玉県	岩井 優介	埼玉県企画財政部地域政策課

第7分科会 小山市・下野市

島根県	竹田 尚子	松江NPOネットワーク
宮崎県	島中 星輝	宮崎県地域づくり協議会
宮崎県	岩谷 智友璃	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	高木 慎平	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	竹内 美結	宮崎大学
宮崎県	一丸 萌夏	宮崎大学
栃木県	塩田 智明	帝京大学
和歌山県	和田 悠希	和歌山県地域振興課
和歌山県	上山 奈那	和歌山県日高振興局地域づくり部地域づくり課
長野県	栗原 拓也	長野県庁 地域振興課
福岡県	荒倉 悠	福岡県政策支援課
和歌山県	中谷 美桜	和歌山県 海草振興局 地域づくり部
和歌山県	久保 瞳	海草振興局地域づくり部地域づくり課
東京都	吉添 圭介	地域づくり団体全国協議会
東京都	飯山 由貴	地域づくり団体全国協議会
栃木県	柴田 大輝	栃木市

参加者一覧



〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

第8分科会真岡市

島根県	永見 昌之	今福まちづくり委員会
島根県	小笠原 勝司	(公財)ふるさと島根定住財団
岩手県	高橋 直子	北上市まちづくり部地域づくり課
宮崎県	永山 葵	宮崎県総合政策部中山間・地域政策課
和歌山県	佐々木 洋輔	和歌山県庁有田振興局地域づくり部地域づくり課
茨城県	池田 貴史	結城市役所 まちづくり協働課
青森県	内宮 直人	青森県東青地域連携事務所
福岡県	村山 未矩	福岡県政策支援課
兵庫県	大西 舞奈	一般財団法人明石コミュニティ創造協会
長野県	竹内 充	地域づくりネットワーク長野県協議会上田支部
東京都	古屋 俊樹	地域づくり団体全国協議会
北海道	小川 朋栄	地域づくりネット深川輝人工房

〈都道府県〉 〈氏名〉 〈所属団体〉

第11分科会那須塩原市

長崎県	梅田 真由美	長崎県 地域づくり推進課
宮崎県	工藤 みちよ	宮崎県地域づくり協議会
宮崎県	中嶋 祐輔	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	平塚 咲子	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	野田 昌弘	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	野川 喜美子	喫鳴会
宮崎県	高木 ひかり	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
沖縄県	内野 明香	公益社団法人沖縄県地域振興協会
沖縄県	中村 美香子	公益社団法人沖縄県地域振興協会
福岡県	今泉 重敏	地域づくりネットワーク福岡県協議会
長崎県	片岡 優子	特定非営利活動法人 BaRaKa
東京都	堀 美紗子	地域づくり団体全国協議会

第9分科会大田原市

長崎県	本多 良成	長崎県 地域づくり推進課
宮崎県	井上 優	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
宮崎県	古賀 和子	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
福島県	星 周明	福島県企画調整部地域振興課
福岡県	原賀 いずみ	地域づくりネットワーク福岡県協議会
兵庫県	鈴木 稜平	一般財団法人明石コミュニティ創造協会
長野県	宮崎 崇徳	NPO法人安曇野ふるさとづくり応援団
和歌山県	松山 桃子	和歌山県庁
埼玉県	平山 茂	埼玉未来大学地域創造科同窓会
宮崎県	細山田 朱莉	宮崎県総合政策部中山間・地域政策課

第12分科会茂木町

福岡県	斉藤 政雄	地域づくりネットワーク福岡県協議会
群馬県	牧野 司	群馬県地域創生課
岡山県	彭 思思	岡山県津山市役所
高知県	池川 侑花	高知県農業振興部農業担い手支援課
東京都	石黒 剛	地域づくり団体全国協議会
栃木県	鈴木 雅秀	栃木県
栃木県	鈴木 悦子	栃木県
栃木県	武井 雅幸	栃木県農政部農村振興課
栃木県	神山 夏紀	栃木県農政部農村振興課

第10分科会矢板市

長崎県	青山 一信	長崎県地域づくりネットワーク協議会
茨城県	齊藤 知佳	茨城県神栖市役所
宮崎県	杉田 英治	宮崎県地域づくりネットワーク協議会
茨城県	安達 美和子	茨城県総務部
宮崎県	根岸 裕孝	宮崎大学地域資源創成学部
青森県	小玉 直史	青森県 地域交通・連携課
長野県	大塚 裕明	一般社団法人地域づくり美麻
福岡県	安本 彩乃	福岡県政策支援課
東京都	大城 史晃	総務省

第13分科会那珂川町

宮崎県	佐藤 美月	宮崎大学
宮崎県	那賀 耀	宮崎大学
群馬県	茂木 八千代	文科創生研究所
長野県	並木 真人	信州さらしな月の里県実行委員会事務局
福島県	井出 賢太郎	福島県企画調整部地域振興課
和歌山県	瀬畑 佑衣	和歌山県西牟婁振興局地域づくり課
東京都	大上 晴子	地域づくり団体全国協議会
兵庫県	榎谷 輝	公益財団法人しろう森林王国観光協会
兵庫県	岡田 雄邦	メイプルタウンクラブ
兵庫県	鎌田 勝也	メイプルタウンクラブ

敬称略・順不同

栃木大会実行委員一覧



分科会名	所在市町	氏名	団体名
第1分科会	宇都宮市	平野 歩	NPO法人大谷商工観光協会
第2分科会	足利市	後藤 芳枝	名草craft
第3分科会	栃木市	遠藤 百合子	NPO法人嘉右衛門町伝建地区まちづくり協議会
第4分科会	佐野市	石川 和弘	サイクルタウンさの推進委員会
第5分科会	鹿沼市	紺野 勝寛	スマイルきくさわ
第6分科会	日光市	山田 巧	足尾まるごと井戸端会議
第7分科会	小山市	渡邊 正道	PLAN OYAMA プラットフォーム
	下野市	山口 貴明	(一社)シモツケクリエイティブ
第8分科会	真岡市	林 大輔	真岡まちづくりプロジェクト
第9分科会	大田原市	濱野 将行	(一社)えんがお
第10分科会	矢板市	手塚 将之	(有)手塚武商店
第11分科会	那須塩原市	樋爪 克至	那須塩原市ART369プロジェクト実行委員会
第12分科会	茂木町	石川 修子	農事組合法人そばの里まぎの
第13分科会	那珂川町	藤田 悦男	小砂village協議会
栃木県総合政策部長	栃木県	浅野 尚志	地域づくり団体栃木県協議会会長

見ざる 言わざる 聞かざるじゃあもったいねえ!
こでらんねえ 栃木県

**第41回
 地域づくり団体
 全国研修交流会
 栃木大会**



那須塩原市分科会

扇状地に広がる自然とコミュニティで
沸き起こるアートなまち

日光市分科会

繁栄の「光と影」から掘り起こす、
地域資源の活かし方

鹿沼市分科会

『シニア サポート モビリティ』と
『耕作放棄地で生まれる
至極の慈しみそば』

佐野市分科会

浅草発、さのちゃり!!

足利市分科会

「歴史と文化と花のまち足利」が
挑む里山資源を生かした
地域づくり

栃木市分科会

地域の「く」「のむ」「まなぶ」をつなぐ
「わ」のまち栃木市

小山市・下野市分科会

「何もない!？」から始まった
地域づくりのアレやコレ!!

大田原市分科会

古代から現代へ人が輝く
生涯活躍できるまちづくり

矢板市分科会

矢板市が挑む!
資源再活用 of これからの
新しい地域づくり

那珂川町分科会

世界でただ一つの陶芸に
チャレンジ・農家民泊、
棚田オーナークラブで地域づくり

宇都宮市分科会

「大谷石(おおやいし)」を
中心とした観光地域づくり

茂木町分科会

里山の恵みを活かしたまちづくり
「しあわせの、自給自足」

真岡市分科会

人づくり×つながりづくり×地域づくり
～「まちつく」の取組から～



第41回 地域づくり団体全国研修交流会栃木大会
 報告書 令和8(2026)年3月発行

編集・発行 第41回地域づくり団体全国研修交流会
 栃木大会実行委員会事務局

